

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-4

< 第26週 > 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.5-9

< 伝染性紅斑 > 9歳以下が全体の90%以上を占めており、なかでも4～7歳がほぼ半数を占めている  
< 腸管出血性大腸菌感染症 > 今後、本症の発生はさらに増加するものと予想され、その発生動向には注意が必要である



病原体情報  
P.10-13

ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年 / アデノウイルス3型 2006年 / 無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2006年



速報

< 今週は該当記事はありません >



海外感染症情報

< 今週は該当記事はありません >



感染症の話  
P.14-18

< シラミ症 > アタマジラミ症報告件数は1987年度には約200件、1,900人にまで減少したが、1990年代になると再び増加傾向を示した



読者のコーナー  
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(26週)  
P.19-25



26週のデータ  
P.26-37



# 発生動向総覧

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

## <第26週コメント> 7月6日集計分

### 全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることとなります。宜しく御理解下さい。

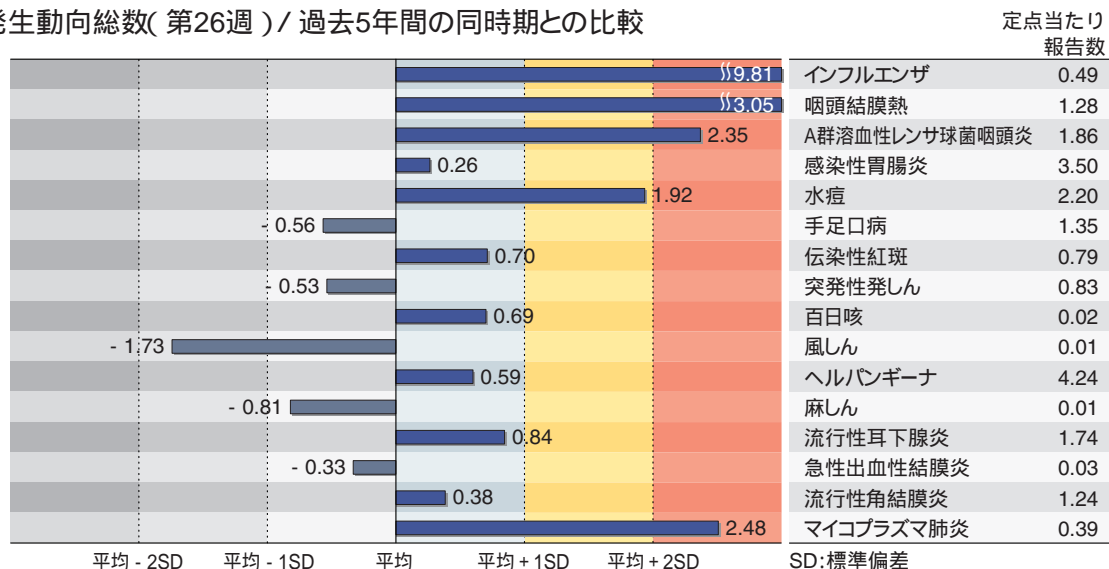
感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ 2例(感染地域: とともにインド)  
細菌性赤痢 4例(感染地域: 兵庫県2例、愛知県1例、エジプト1例)  
腸チフス 1例(感染地域: シンガポール/バングラデシュ)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 111例(うち有症者74例、HUS 3例)  
感染地域: 国内110例、インドネシア1例  
国内の多い感染地: 埼玉県(18例)、鹿児島県(13例)、東京都(10例)、愛知県(8例)  
年齢群: 10歳未満(34例)、10代(27例)、20代(14例)、30代(14例)、40代(11例)、50代(3例)、60代(3例)、70歳以上(5例)  
血清型・毒素型: O157 VT2(42例)、O157 VT1・VT2(36例)、O26 VT1(13例)、O26 VT1・VT2(2例)、O91 VT1(2例)、O103 VT1(2例)、O157 VT1(2例)、O1 VT1(1例)、O111 VT1(1例)、O121 VT2(1例)、O128 VT1(1例)、その他/不明(8例)
- 4類感染症: E型肝炎 1例(感染地域: 神奈川県、感染源: 不明)  
A型肝炎 1例(感染地域: フィリピン)  
つつが虫病 6例(感染地域: 秋田県3例、青森県2例、岩手県1例)  
デング熱 1例(感染地域: インドネシア)  
マラリア 2例  
(ともに三日熱、感染地域: パプアニューギニア1例、インド1例)  
レジオネラ症 13例(すべて肺炎型、うち1例死亡)  
年齢群: 50代3例、60代5例、70代3例、80代2例  
感染地域(温泉): 岐阜県3例(うち1例温泉)、山口県2例(うち1例温泉)、北海道1例(温泉)、埼玉県1例、富山県1例、静岡県1例、三重県1例、京都府1例、兵庫県1例、岡山県1例
- 5類感染症: アメーバ赤痢 12例(腸管11例、腸管外1例)  
感染地域: 国内8例、インドネシア1例、タイ1例、メキシコ/ブラジル1例、国外(不明)1例  
感染経路: 経口3例、性的接触4例(異性間2例、同性間1例、不明1例)、不明5例  
ウイルス性肝炎 5例 B型4例\_感染経路: すべて性的接触(異性間3例、同性間1例)  
C型1例\_感染経路: 不明  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(70代、血清群: A群、死亡)  
後天性免疫不全症候群 16例(無症候13例、AIDS 3例)  
感染経路: 性的接触12例(異性間2例、同性間9例、異性間/同性間1例)、不明4例  
感染地域: 国内12例、国外(国不明)4例  
ジアルジア症 1例(感染地域: 国内)  
梅毒 10例(早期顕症I期3例、早期顕症II期5例、無症候2例)  
破傷風 3例(50代1例、60代2例)  
(補)他にジアルジア症1例、梅毒2例の報告があったが、削除予定。また報告遅れとして、コレラ1例(疑似症)、Q熱1例(感染地域: 香川県、感染源: 不明)、ライム病1例(感染地域: 北海道)、レジオネラ症3例(すべて肺炎型、感染地域: 東京都1例(温泉)、富山県1例、熊本県1例(温泉))、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例(40代1例、60代2例、70代1例、血清群: すべてA群)などの報告があった。

## 定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第26週)/過去5年間の同時期との比較



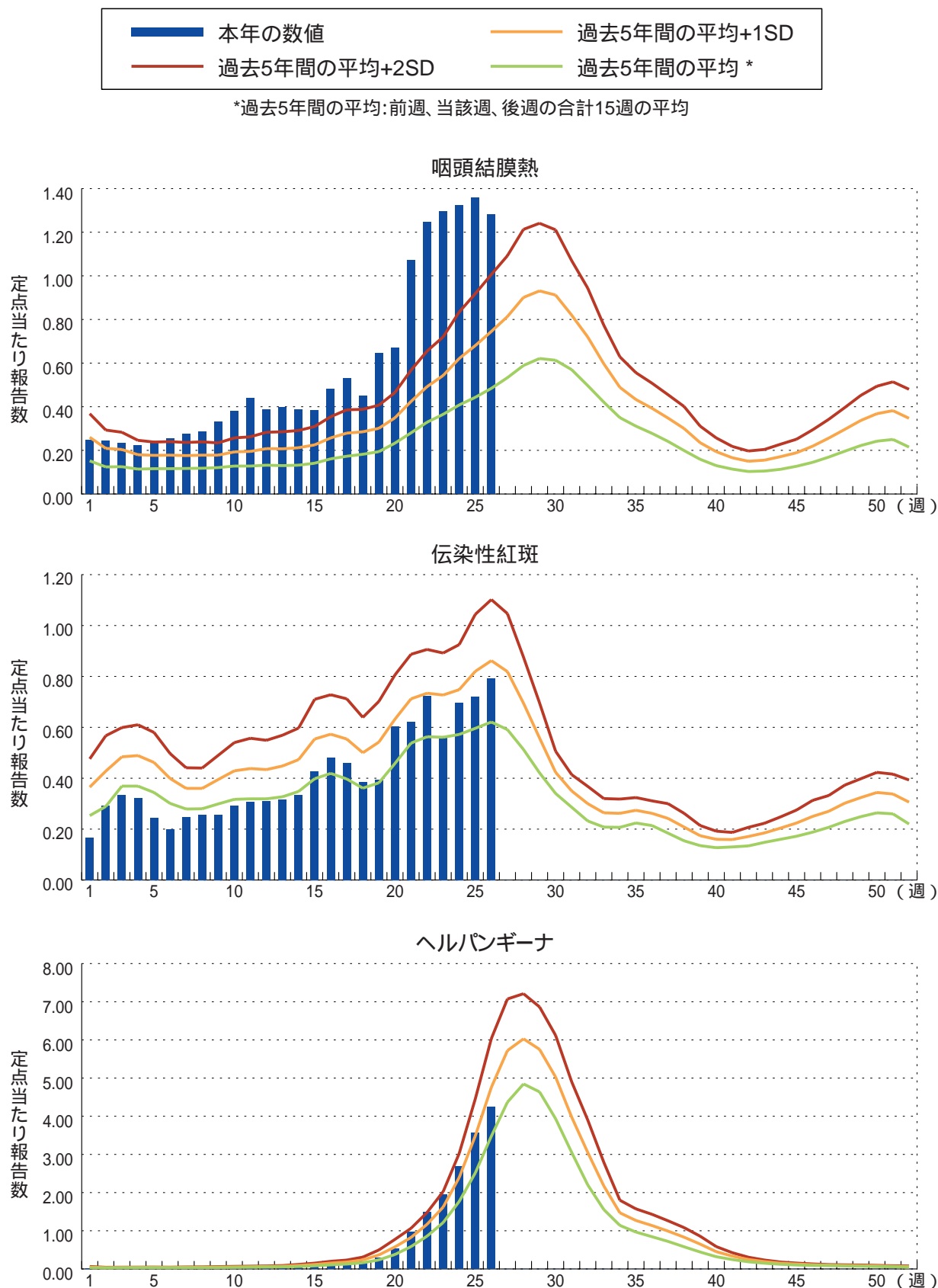
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。

**インフルエンザ**: 定点当たり報告数は3週連続して減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では沖縄県(18.6)、青森県(2.6)、岩手県(1.3)、北海道(1.2)が多い。

**小児科定点報告疾患**: RSウイルス感染症は70例の報告があり、報告数は減少した。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の約70%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では愛媛県(2.5)、奈良県(2.4)、鳥取県(2.1)、長野県(2.0)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では山形県(3.3)、三重県(3.0)、長野県(2.9)、宮崎県(2.9)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第21週以降、減少が続いている。都道府県別では大分県(8.4)、福井県(8.0)、宮崎県(6.5)が多い。水痘の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では長野県(4.1)、福島県(3.5)、愛媛県(3.4)、新潟県(3.4)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第19週以降、増加が続いている。都道府県別では福井県(9.1)、岐阜県(5.2)、徳島県(4.8)、静岡県(4.7)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別では埼玉県(1.6)、山形県(1.5)、鳥取県(1.5)、宮崎県(1.5)が多い。百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では栃木県(0.09)、福島県(0.06)、福井県(0.05)、長崎県(0.05)が多い。風しんの定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮城県(0.05)、山梨県(0.04)、島根県(0.04)、鹿児島県(0.04)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第10週以降、増加が続いている。都道府県別では和歌山県(9.9)、千葉県(7.9)、神奈川県(7.4)、新潟県(6.2)が多い。麻しんの定点当たり報告数は微減した。都道府県別では千葉県(0.05)、岩手県(0.03)、秋田県(0.03)、岡山県(0.02)、鹿児島県(0.02)が多い。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数はほぼ横ばいであった。都道府県別では鹿児島県(4.7)、鳥取県(3.4)、新潟県(3.4)、長野県(3.2)が多い。

**基幹定点報告疾患**: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い状態が続いている。都道府県別では青森県(2.7)、群馬県(2.0)、沖縄県(1.9)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2006年第1～26週)  
 青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





# 注目すべき感染症

## 伝染性紅斑

伝染性紅斑( erythema infectiosum )は幼児、学童に好発する感染症であり、病原体は単鎖DNAウイルスであるパルボウイルスB19である。感染経路は通常、飛沫感染あるいは接触感染であるが、まれに血液製剤からの感染の報告がある。

感染後約1週間で軽い感冒様症状を示すことがあるが、この時期にはウイルス血症を起こしており、ウイルスの体外への排泄量は最も多くなる。本疾患の特徴的な症状は、感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑であり、続いて腕、脚部にも両側性にレース様の紅斑がみられる。発疹が体幹部( 胸腹背部 )にまで出現する例もある。発熱はあっても軽度である。発疹の出現時期にはすでに抗体産生が始まっており、ウイルス血症は終息し、感染性は殆どないといわれている。

成人の場合、両頬の紅斑がみられることは少ない。合併症である関節痛・関節炎の頻度は小児では10%以下であるが、成人男性では約30%、成人女性では約60%と高率である。また妊婦が感染すると、胎児水腫や流産の可能性がある。妊娠前半期の方がより危険性が高いが、後半期にも胎児感染が生じるとの報告もある。その他、溶血性貧血を有する場合に骨髄無形成発症( aplastic crisis )を引き起こすことがあり、他にも血小板減少症、顆粒球減少症、血球貪食症候群など、稀ではあるが重篤な合併症が知られている。

感染症発生動向調査によると、伝染性紅斑は例年夏季に報告数が増加し、ピークは第26週前後のことが多い( 図1 )。年齢では9歳以下が全体の90%以上を占めており、なかでも4～7歳がほぼ半数を占めている( 図2 )。過去6年間の定点医療機関からの累積報告数の年別推移をみると、2001年が67,667例と最多であり、2003年以降は50,000例以下で推移していたが( 図3 )、2006年は第26週までで32,371例であり、今までのところ、2003年以降では最も多くなっている。

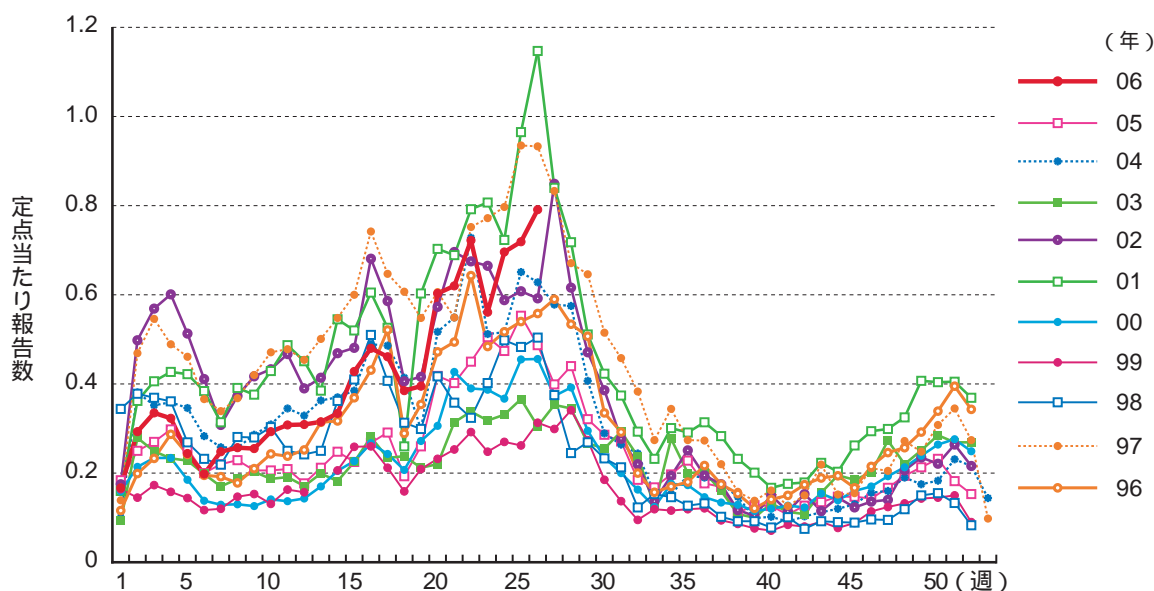


図1. 伝染性紅斑の年別・週別発生状況( 1996～2006年第26週 )



伝染性紅斑は紅斑出現時期には感染性は殆どなく、感染予防策の必要性はないが、ウイルス血症を示して感染性のある時期には特徴的な症状はなく、本疾患と判定できないので、実際的な感染予防策は困難である。したがって妊婦などの高リスク者は、普段から流行時期には人ごみを避けて、手洗い励行などの一般的対策をとるべきである。

今後とも伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。

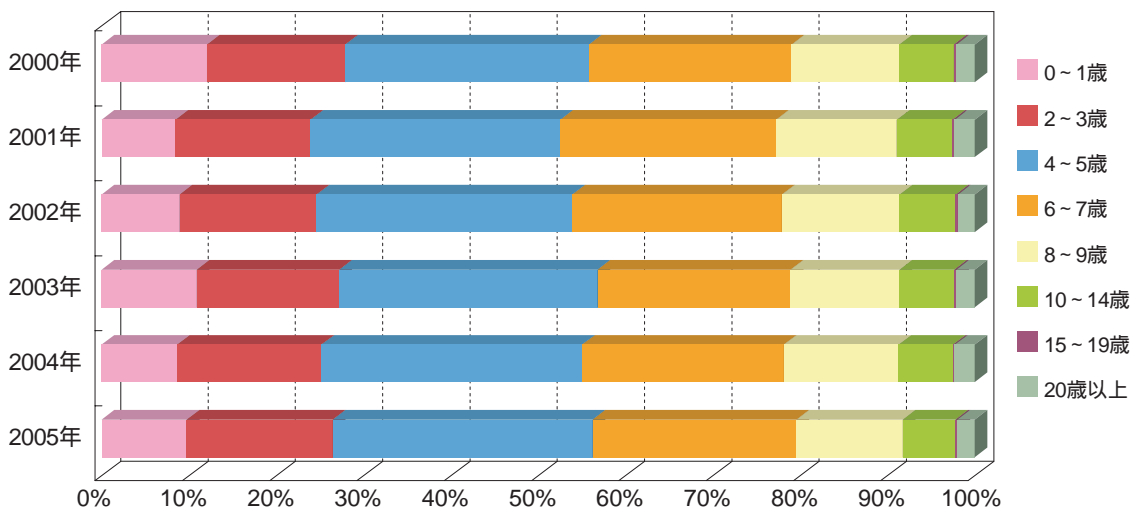


図2. 伝染性紅斑の報告症例の年別・年齢群別割合(2000～2005年)

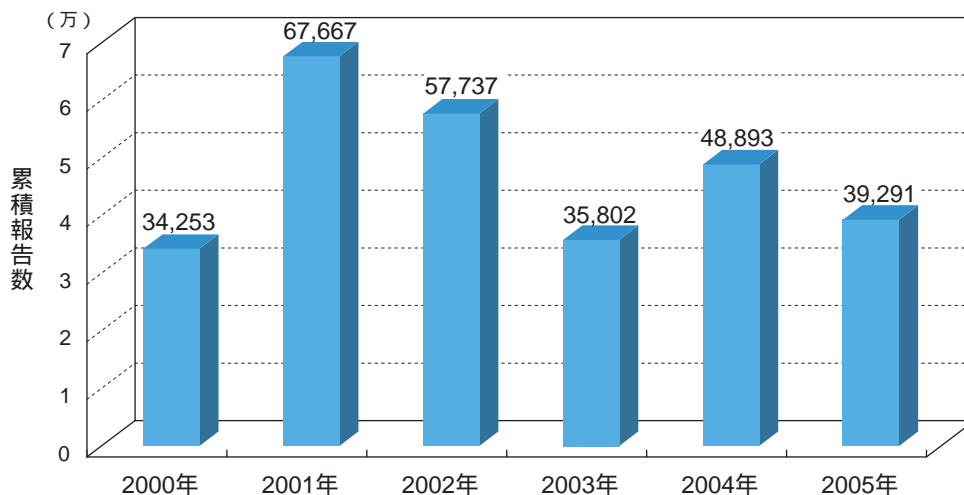


図3. 伝染性紅斑の年別発生状況

## 腸管出血性大腸菌感染症

2006年における腸管出血性大腸菌感染症の報告は、第15週(27例)から増加が認められ、第20週(53例)に50例を超え、第21週以降は80例前後で推移していたが、第26週に100例を超えて111例となった。本年第26週までの累積報告数は866例であるが、今までのところ例年(2000年936例、2001年1,347例、2002年985例、2003年635例、2004年904例、2005年909例)と比べ、多いとは言えない(図1)。

第26週に報告のあった111例についてみると、報告の多かった都道府県は埼玉県(18例)、福岡県(14例)、東京都(12例)、愛知県(8例)、静岡県(6例)であった(図2)。埼玉県の18例のうち8例は、第25週に報告のあった3例とともに同一焼肉店における集団発生で、福岡県の14例中12例は、2つの高校(各6例ずつ)での集団発生である。2006年4月から、国内を感染地域とする場合に、県名などの詳細情報を届け出るようになったが、第26週に感染地域として多かった都道府県は、埼玉県(18例)、鹿児島県(13例)、東京都(10例)、愛知県(8例)であった(図2)。また、国外(インドネシア)を感染地域とするものが1例あった。性別では男性53例、女性58例であり、年齢階級別(10歳毎)では0～9歳(34例)が最も多く、31%を占めた。また有症状者は74例で、無症状病原体保有者が37例であった。無症状病原体保有者は、食品産業従事者の定期検便によって発見される場合もあるが、多くは探知された患者と食事を共にした者や、接触者の調査などによって発見される場合が多い。分離された菌の血清型・毒素型別は、O157 VT2(42例)、O157 VT1・VT2(36例)、O26 VT1(13例)の順に多かった。

第1～26週の累積報告数866例についてみると、報告の多かった都道府県は、大阪府(83例)、東京都(62例)、愛知県(52例)、埼玉県(45例)、福岡県(44例)である(図3)。性別では男性432例、女性434例であり、年齢階級別(10歳毎)では0～9歳(338例)が最も多く、39%を占めている。性別・年齢群別にみると、0～9歳および10～19歳では男性が女性より多く、それ以上の年齢群では女性が男性より多い。また、有症状者は561例(65%)で、無症状病原体保有者が305例である。性別・年齢群別・症状の有無別にみると、男女ともに30～50代では無症状病原体保有者が多く、それ以外では有症状者が多い(図4)。分離された菌の血清型・毒素型は、O157 VT1・VT2(324例)、O26 VT1(180例)、O157 VT2(177例)の順に多かった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)については報告遅れ分や追加報告を含み、第26週に5例報告があり、累積では19例となった。2006年4月からHUS発症例の届出は、病原体の分離ができない症例であっても、便から直接のベロ毒素の検出や、血清抗体の検出によって届出対象となった。19例のうち7例は、血清抗体の検出により届け出られたものである。死亡例については、2006年では第26週までに報告はない。ただしHUSなどの合併症や死亡については、届け出時点以降での発生が十分反映されていない可能性があり、発生があった場合の追加・修正報告をお願いしている。

本年も既に飲食店や動物園に関連した集団発生がみられた他、保育施設での集団発生が散見されている。今後、本症の発生はさらに増加するものと予想され、その発生動向には注意が必要である。そのため、食品の取り扱いには十分注意して食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが大切である。また本症に限らない注意として、保育施設においては特にオムツ交換時の手洗い、園児に対する食前・食後の手洗い指導を徹底し、さらに簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。

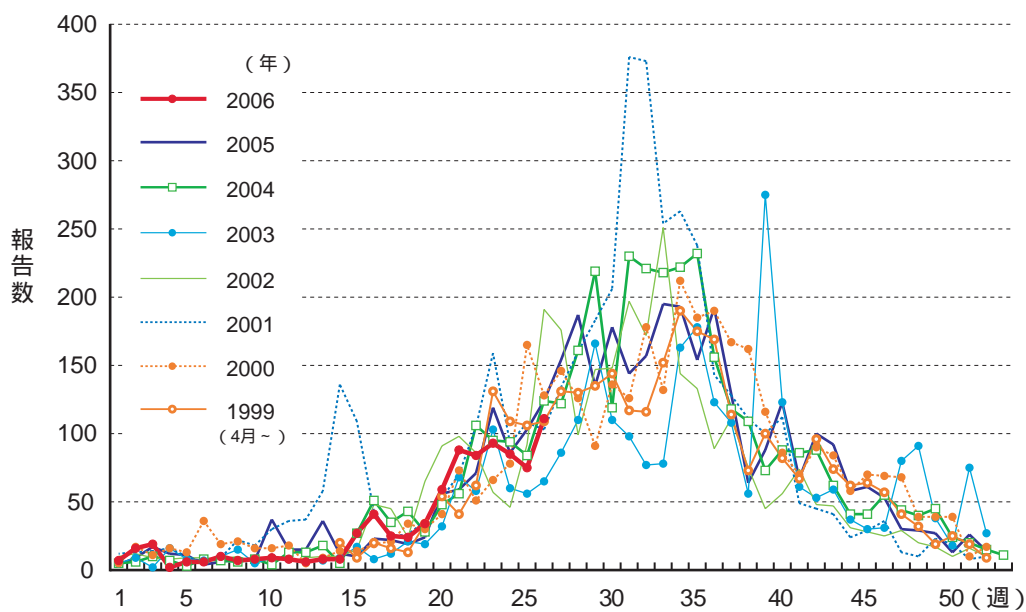


図1. 腸管出血性大腸菌感染症( 無症状病原体保有者含む )の年別・週別発生状況

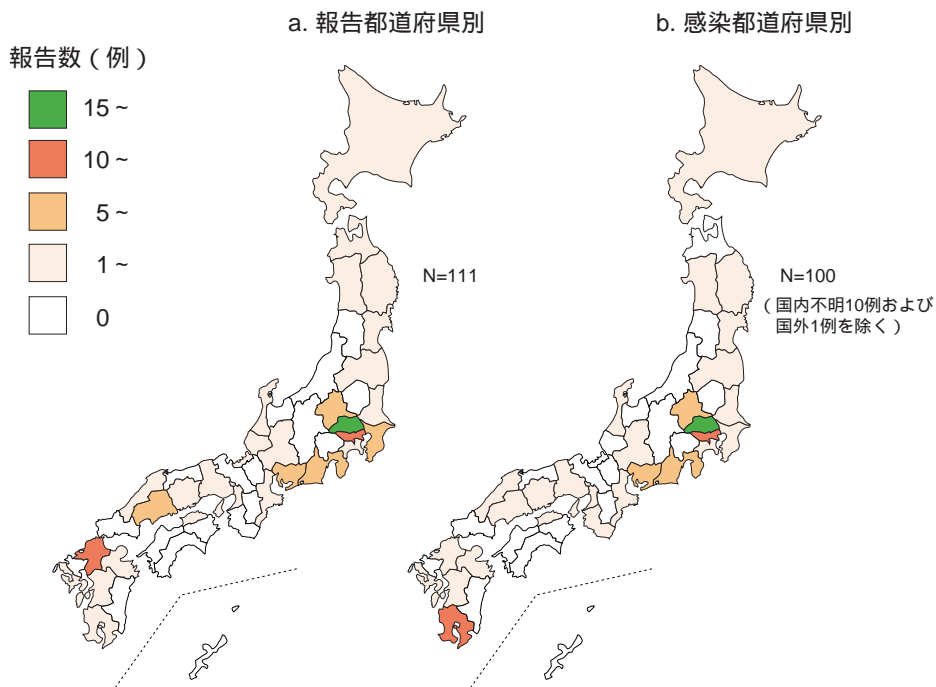


図2. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告状況・感染状況( 2006年第26週 )



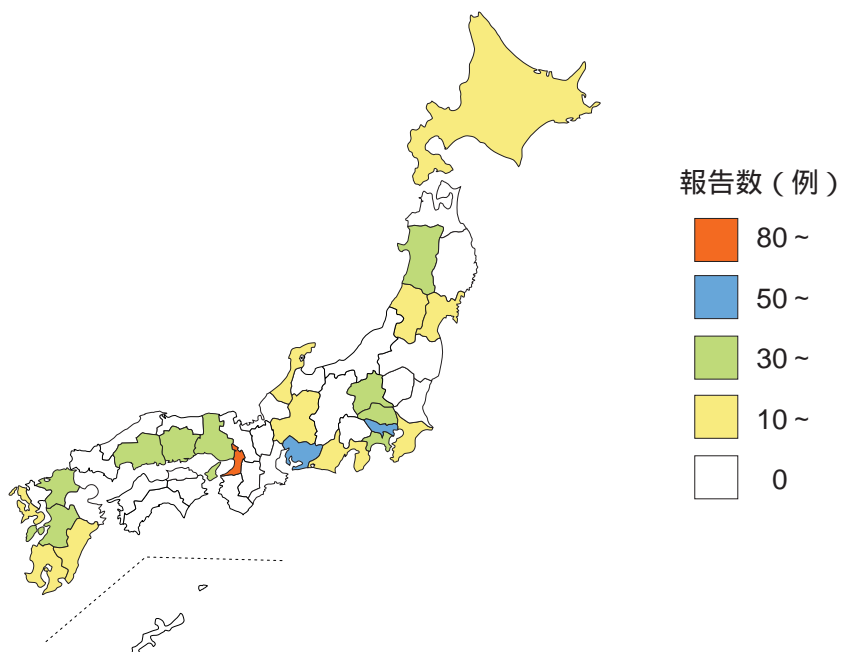


図3. 腸管出血性大腸菌感染症の都道府県別報告状況( 2006年第1 ~ 26週 )

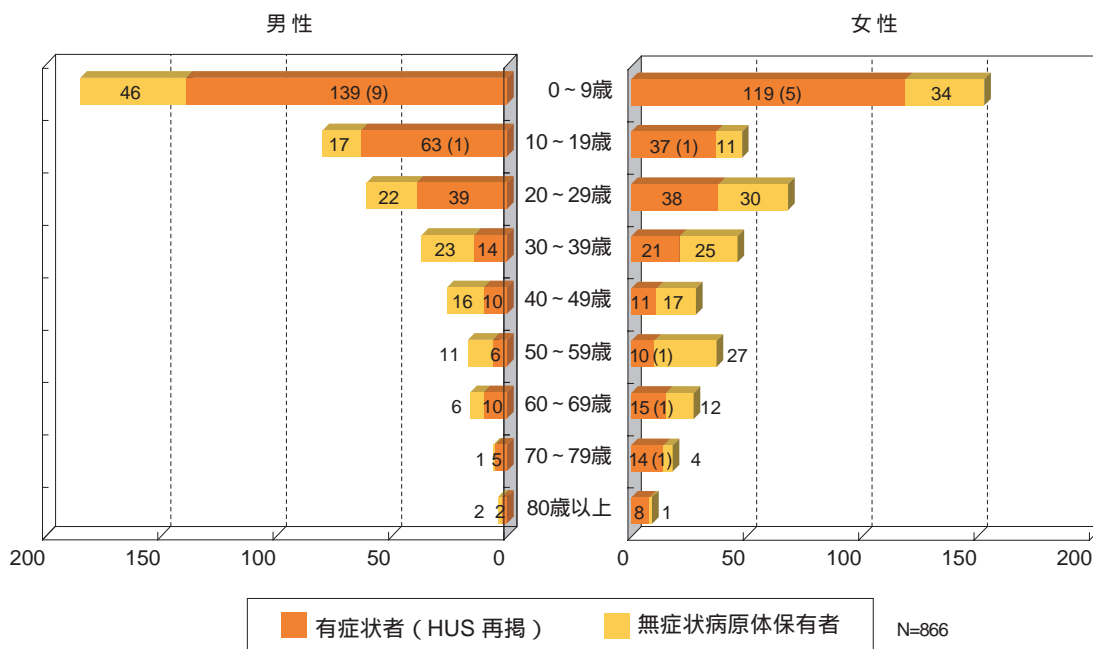


図4. 腸管出血性大腸菌感染症の性別・年齢群別・症状の有無別報告数( 2006年第1 ~ 26週 )



## 病原体情報

\* グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

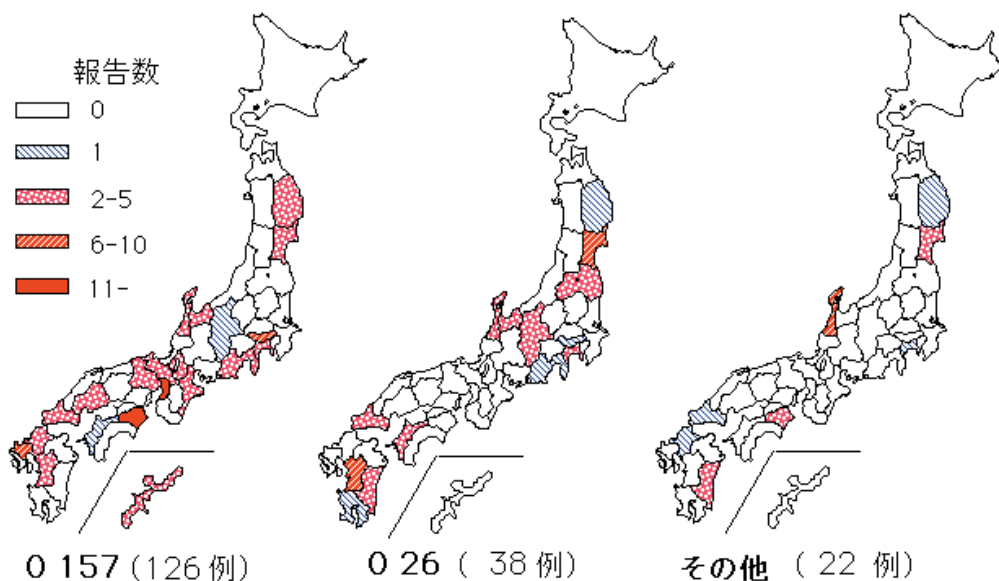
(2006年7月6日現在報告分)

### ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2006年

2006年の検出総数は186件で、O157が126件、O26が38件、その他の血清型が22件報告されている。第14～16週に徳島県からO157による飲食店での集団発生事例が報告されている。

#### 都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年

(病原微生物検出情報：2006年7月6日現在報告数)



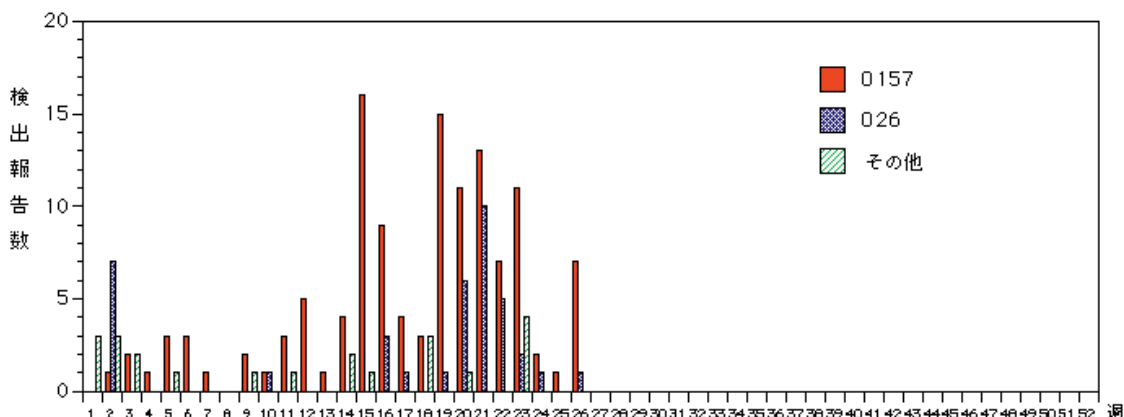
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

#### 週別Vero毒素産生性大腸菌分離報告数、2006年

(病原微生物検出情報：2006年7月6日現在報告数)



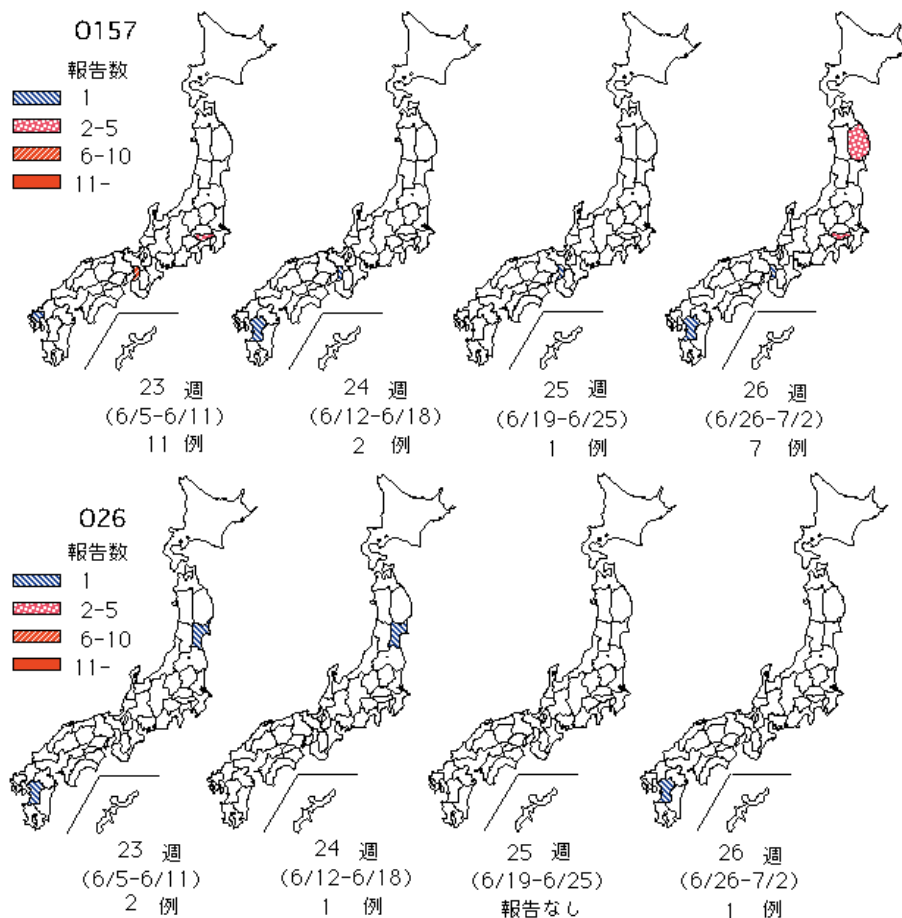
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

都道府県別Vero毒素産生性大腸菌分離報告状況、2006年第23週～第26週

(病原微生物検出情報：2006年7月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した。



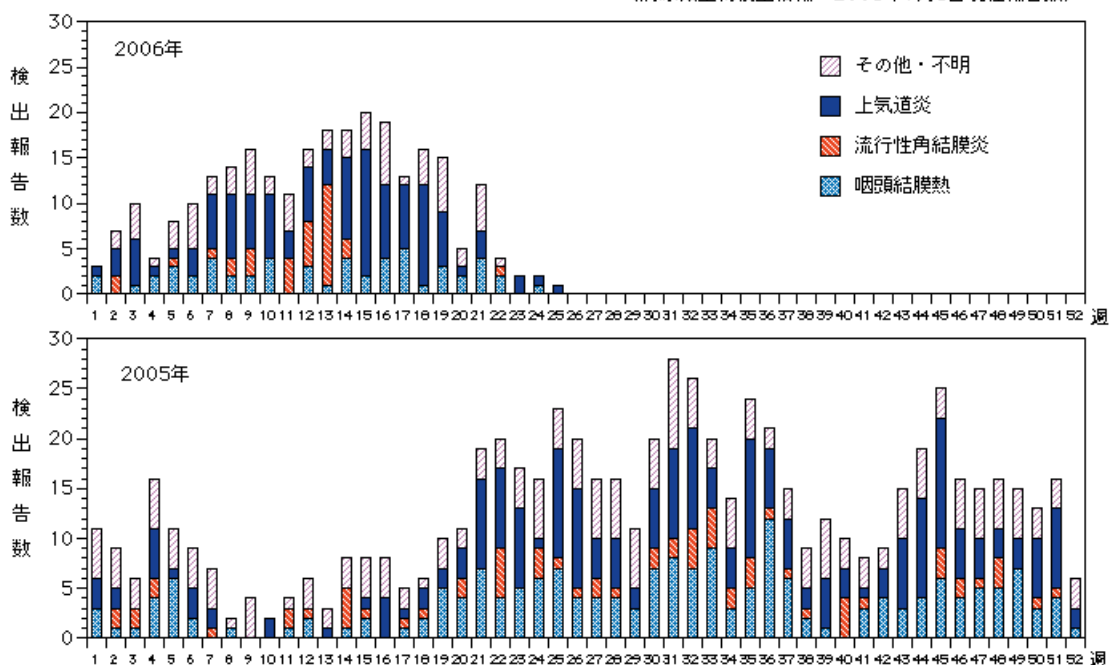
Infectious Agents Surveillance Report

### アデノウイルス3型 2006年

2005年後半に続いて2006年もアデノウイルス3型( Ad3 )の報告が多く、上気道炎116件、咽頭結膜熱54件、流行性角結膜炎32件、下気道炎20件、感染性胃腸炎8件、不明熱5件など、計271件が報告されている。

週別アデノウイルス3型分離・検出報告数、2005年&2006年

(病原微生物検出情報：2006年7月6日現在報告数)

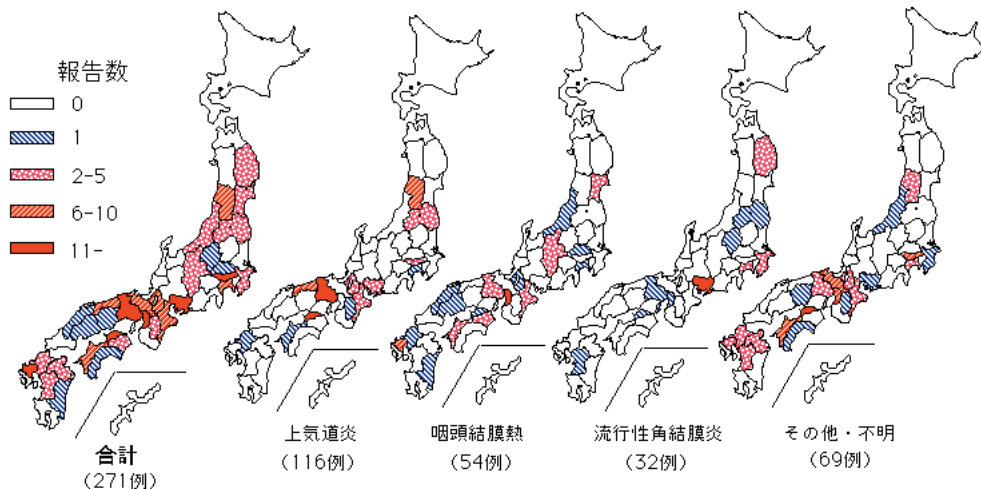


各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



都道府県別診断名別アデノウイルス3型分離・検出報告状況、2006年

(病原微生物検出情報：2006年7月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。

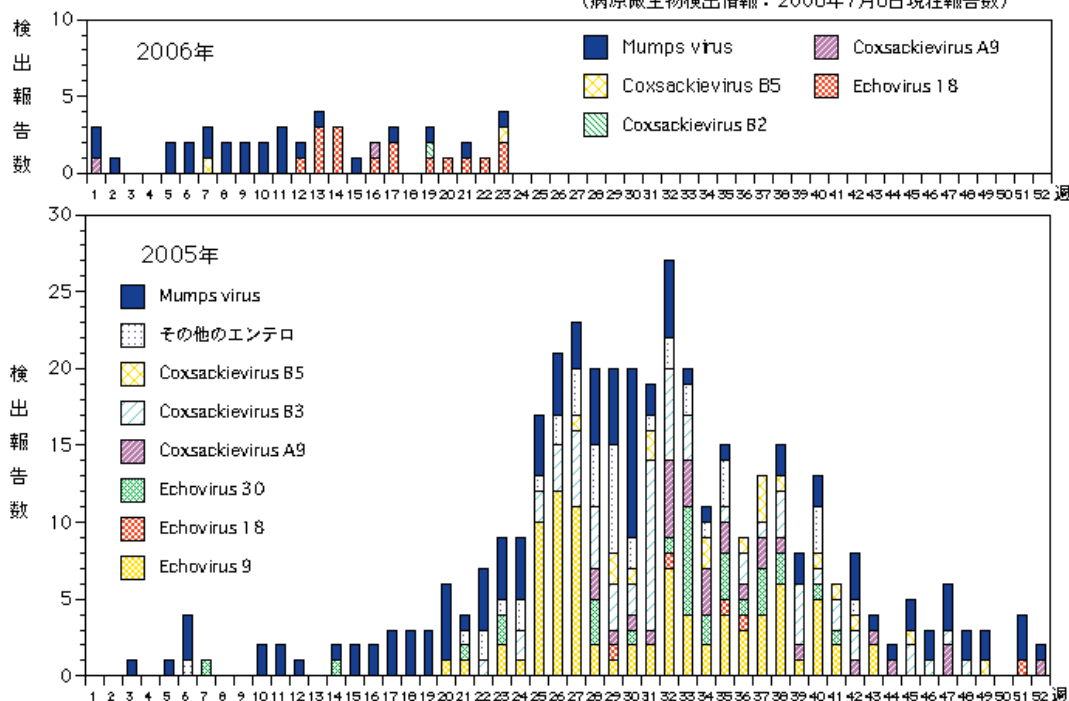


**無菌性髄膜炎患者から検出されているウイルス 2006年**

2006年は第12週以降エコーウイルス18型(E18)の報告が続いている。E18が16件、ムンプスウイルスが25件、コクサッキーウイルス(C)A9、CB5が各2件、CB2が1件、計46件が報告されている。

**週別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離・検出報告数、2005年&2006年**

(病原微生物検出情報: 2006年7月6日現在報告数)



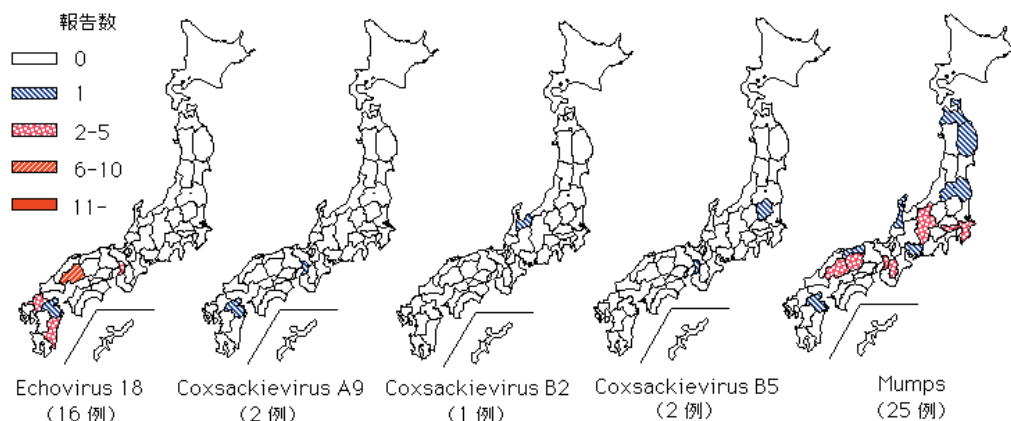
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

**都道府県別無菌性髄膜炎患者からの主なウイルス分離・検出報告状況、2006年**

(病原微生物検出情報: 2006年7月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report





## 感染症の話

### シラミ症

ヒトに寄生するシラミには、頭部に寄生するアタマジラミ (*Pediculus capitis*)、衣類に寄生するコロモジラミ (*P. humanus*)、主として陰毛に寄生するケジラミ (*Phthirus pubis*) の3種がある。シラミの種類と感染集団は特異性があり、アタマジラミ症は12才以下の児童、コロモジラミ症は衣類の取替えなど保清行動が不自由な集団、ケジラミ症は性行動が活発な年齢層を中心に発生が見られる。

#### 疫学

##### [アタマジラミ症]

アタマジラミの寄生は世界的にも子供に多い傾向が認められ、同一国内で人種による寄生率に差は認められていない。しかし頭髪の長さや性別に関係があり、同年齢の男児と女児の寄生率を比較した場合、明らかに長髪の女児にアタマジラミの寄生率が高い傾向がみられる。全体的にアタマジラミの寄生率には国、地方、幼稚園、小学校などの調査施設で大きく異なっているが、先進諸国、開発途上国を問わず、子供達のアタマジラミ寄生率は高く、世界中にアタマジラミが蔓延している状況が理解できる。子供達の頭を洗う習慣と頻度は、気候的また文化的な背景が強く関係しており、一概に経済状態が反映しているとは言い難い。

わが国では、1971年のDDT、BHC等の有機塩素系殺虫剤の使用禁止に伴い、我が国で使用可能な薬剤が一時期無くなり、学童や園児にアタマジラミ症の集団発生が見られるようになった。1982年度でアタマジラミ症報告件数は約2,300件、罹患者数約24,000人のピークが認められた。しかし同年、ピレスロイド系殺虫剤(スミスリンパウダー)がアタマジラミ駆除薬として発売されてから、暫時罹患者数は減少し、1987年度には約200件、1,900人にまで減少した。1990年代になると再び増加傾向を示し、1992年度には約7,500人からなる小ピークが認められ、その後、約5,000～6,000人の状態が続き、1994年度以降アタマジラミ症発生件数は増加傾向を示している。

##### [コロモジラミ症]

コロモジラミは衣服を着替えたり、入浴する習慣が無い山岳地方に生活する人々、民族紛争や大規模な自然災害に遭遇して難民生活を余儀なくされている人々、囚人、ホームレスなど、下着や衣服を取り替えることが困難な生活を強いられている人々に高率に寄生が認められる。先進諸国ではコロモジラミの患者数はアタマジラミの患者数と比べて非常に少ないが、路上生活者やアルコール・薬物依存者などの特定集団に再興が認められている。例えばチェコスロバキアでは、1945年以来発生が認められなかったコロモジラミが1991年に見つかった。オランダでも1993～1994年にかけてホームレスのための診療所で、31人からコロモジラミが見つかった。

我が国におけるコロモジラミ症は、第二次世界大戦以前においては珍しいものではなかった。実際コロモジラミが媒介する発しんチフスは、大正7年に7,000名を越す大きな流行があった。その後、昭和18年以降1,000名を越す流行が続き、終戦の翌年(昭和21年)には3万人を越す流行が全国的に起こっている。これは、戦後の混乱でコロモジラミ症が蔓延していたことを意味している。その後戦後復興が進み、発しんチフス対策としてDDT等が広範に使用されてから、

非常に速やかに発しんチフス患者数は減少し、昭和26年には10人以下にまで減少し、昭和28年からは患者がほとんど発生していない。しかしコロモジラミ症の患者は1992年から増加し始め、1997～1999年においては25～42名と明らかに報告件数が増加している。

最近わが国で行われたある自治体の調査において、ホームレスの人々に結核健診に加えてコロモジラミ症を検査したが、平均約6%のホームレスにコロモジラミの寄生が認められ、ある被検者の衣服から1,000匹以上の虫体が分離された。この調査を受けたホームレス集団は衛生状態が比較的良い者に偏っていたため、全体のホームレスにおけるコロモジラミ罹患率はより高率になる可能性がある。また例数は少ないが、独居老人からのコロモジラミ寄生例も報告されており、高齢化社会における老人福祉の現状に問題を投げかけている。

### 病原体

アタマジラミは成虫の体長が3～4 mm程(雌で2～3 mm、雄で2 mm程度)で、全体は灰白色を呈し、血液が消化管内にある場合は、その部分が黒っぽく見える。口器は吸血しやすい構造になっており、幼虫から成虫までヒトから吸血する。3対の脚末端には発達した爪が各1本ある。ノミ類のように跳んだり跳ねたりしない。

産卵数は1日当たり約3～4個で、1カ月に100個ほど産卵する。卵は約1週間で孵化し、吸血を繰り返して3回脱皮後、約2週間で成虫になる。1～2匹のアタマジラミ幼虫や成虫に寄生された場合、産卵を繰り返して徐々に幼虫の数が増加し、それらが成虫になって交尾し、さらに産卵を繰り返す。このように、ある程度の数になるまでに1カ月ほどかかると予想される。

コロモジラミはアタマジラミより一回り大きい。形態では両者を区別できない。コロモジラミは数時間ごとに吸血を繰り返しているが、吸血時以外は下着等に付着して生活している。

ケジラミの体長は1～2 mm程で、形態的に前2種と明らかに異なる。

### 臨床症状

シラミ症の主要症状は皮膚の激しい掻痒感である。1～2匹の幼虫または成虫が寄生し始めた段階では、ほとんど掻痒感を伴わないが、3～4週間経過して個体数が増加する頃に激しい痒みに襲われる。これは、シラミが吸血時に注入する微量な唾液に対して産生されたIgE抗体が関係していると考えられている。かゆみは吸血された皮膚周囲に局限するが、関連症状としてイライラ感や不眠を生じ、精神的な負担を引き起こす。

あまりの痒さに皮膚を掻破し、その傷から細菌(ブドウ球菌など)の二次感染が生じると、発熱、疼痛などを訴えることもある。

### 病原診断

シラミ類は虫卵・幼虫を含めて十分に肉眼で確認できる大きさである。

#### [アタマジラミ症]

髪毛に付着している白っぽい固まりを2～3倍程度の虫眼鏡で観察する。なお、頭髮上のシラミ卵とふけ、ヘアスプレーが乾いたもの、毛嚢からの皮脂などの付着物との鑑別は、構造を観察することによって容易にできる。

#### [コロモジラミ症]

コロモジラミは人体ではなく、患者が着衣している衣類の襟首や袖口などの縫い目や折目に潜っており、このような部分を中心に寄生の有無を確認する必要がある。

[ケジラミ症]

ケジラミはアタマジラミより小型で、カニに似た形をしているので同定がしやすい。ケジラミは陰毛、腋毛、睫毛へも寄生することがある。

治療・予防

シラミ症はかゆみを起こす他の皮膚疾患との鑑別が重要であり、まず、いつからどのような状況でかゆみが生じるようになったか、詳しく話を聞くことが重要である(鑑別疾患としては疥癬、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、乾癬、蕁麻疹、薬疹など)。また、駆除したのにいつまでも取り付かれていると訴える寄生虫妄想症などにも注意する必要がある。

シラミ症は特定集団内での感染反復が起こりうるので、患者が発生した場合は接触者等の疫学調査を行い、感染拡大を防止する。

[アタマジラミ症]

アタマジラミの感染経路としては直接的な頭部の接触が主な要因であるが、集団生活の場や家族内で寝具、タオル、帽子、ロッカー等を共用することによっても感染する。タオル、櫛やブラシ等の共用を避け、罹患者の着衣、シーツ、枕カバー、帽子等は温水(55℃以上)で10分間ほど処理する。さらに、親が子供たちの頭髪を丁寧に調べること(グルーミング)でシラミの成虫や卵の早期発見が可能であり、確実な駆除が期待される。集団内でアタマジラミ罹患者が発見された場合、駆除対策を一斉に実施することが大切である。

アタマジラミの駆除のために、シラミ駆除専用パウダー剤及びシャンプー剤が市販され、広く使用されているが、諸外国ではアタマジラミ駆除用薬剤に対する抵抗性の発達が大きな問題となっている。処方通りに駆除剤を処理しても、なお生きたシラミが見つかる場合には、殺虫剤抵抗性の発達の可能性が考えられるので、細かな櫛などで物理的にシラミを駆除する方法に切り替えるべきである。

[コロモジラミ症]

コロモジラミの感染経路は、シラミが付着した衣類等を共有することによる。卵、幼虫および成虫が付着した下着、衣服は全て本人の了解のもとに破棄させる。必要によってはオートクレープで処理後、一般ゴミとして捨てる。患者はシャワー等で全身の汚れを洗い流し、シラミの寄生していない衣類に着替えさせる。

[ケジラミ症]

ケジラミの感染経路は性行為等、直接接触が主である。患者の剃毛による虫体及び虫卵の駆除を行う。他の性行為感染症(クラミジア、トリコモナス、梅毒など)を合併していることもあるので、合わせて精査、加療を行う必要がある。また、セクシャルパートナーとのピンポン感染を防ぐため、同時に治療を行うよう指導する。

シラミ媒介性疾患

コロモジラミは発しんチフス、回帰熱(ともに四類感染症)、壟壕熱の病原体を媒介する。最近、発しんチフスおよび回帰熱はアフリカ諸国を中心に断続的に大流行し、壟壕熱は先進国のホームレスやアルコール・薬物依存患者の間で確認され始めている。

[発しんチフス]

ブルンジでは1995年にNgoziの刑務所で、コロモジラミの蔓延と同時に原因不明の高熱患者が発生した。患者の血液と採集されたコロモジラミから、発しんチフスの病原体である*Rickettsia prowazekii*が検出された。この流行後、1996年には3,500名の患者が、また、1997年の1～5月にかけては約24,000名の患者がブルンジ国内で発生した。患者から採取された血液の87%およびコロモジラミの25%から、病原体が検出されている。発しんチフスに関する最近の事例を以下に紹介する。

(事例1)ブルンジの刑務所で収監者の健康管理の仕事に2カ月間従事した国際赤十字の看護師が、スイスに帰国後、高熱、悪寒、筋肉痛を主訴として入院した。旅行歴、症状などからウイルス性出血熱と腸チフスが疑われ、発しんチフスに対する適切な治療は行われなかった。患者は発症後9日目に、発しんチフスによるショックと多臓器不全で死亡した。このケースは、劣悪な衛生環境で仕事に従事している医療関係者が、コロモジラミ媒介性疾患に感染するリスクが高いことを示しており、国際的な感染症対策の現状に問題を投げかけた。

(事例2)1997年ロシアのLipetsk市では、精神病院勤務の看護師が高熱、全身性の斑状・丘疹状の発疹、精神錯乱状態で病院を受診し、発しんチフスと診断された。患者の衣服にコロモジラミの寄生が認められ、精神病院の入院患者23名および病院スタッフ6名にも同様の症状が認められた。当時、同市の暖房供給システムは停止状態で、夜間は-10℃まで室温が下がり、看護師は衣服を取り替えていなかった。ロシアでの政治体制の変革に伴う経済・社会状況の変化は、疾病構造を明らかに変化させ、ロシア国内で20年間見られなかった発しんチフスが再興している。

[回帰熱]

1991年に南西エチオピアでは*Borrelia recurrentis*による回帰熱の流行が起こり、この地域の人口の2/3にコロモジラミの寄生が見られ、全家庭の15%に回帰熱の流行が認められた。エチオピアでは回帰熱が断続的に流行しており、毎年1万人ほどの患者が発生していると推定されている。また、1998～1999年にかけて、スーダンで回帰熱の流行が起こっており、数百人以上がこの流行によって死亡したと推定されている。

[塹壕熱]

塹壕熱の病原体である*Bartonella quintana*は遅発性のグラム陰性短桿菌で、コロモジラミ体内で増殖した*B. quintana*が糞とともに排泄され、これが搔爬により皮膚から侵入し、感染すると考えられている。臨床症状は発熱、骨・関節痛などが主であるが、臨床症状のない慢性の菌血症状態を呈することもあり、また患者がHIV感染等で免疫力の低下した状態にあると、心内膜炎を起こし、突然死に至ることもある。

本疾患は第一次および第二次世界大戦時代の兵士を中心に大流行したのち、沈静化していたが、1998年、マルセーユのホームレス71人中10人から塹壕熱の病原体が検出され、21人に高い抗体価が認められた。血液からの病原体の検出および抗体検査から、最近の感染であることが示唆され、陽性者にはコロモジラミの寄生が見られた。アメリカやヨーロッパ諸国からも症例報告が相次いでいる。

PCR法による世界6カ国から採取されたコロモジラミの病原体保有状況調査では、フランス、ロシア、ペルー、ブルンジ等のシラミから病原体が検出された。この感染症は我が国には存在しないと考えられていたが、最近、我が国で採取されたコロモジラミから*B. quintana*の遺伝子がPCR法で検出され、また患者血清からもPCR法で病原体が確認された。



学校保健法における取り扱い

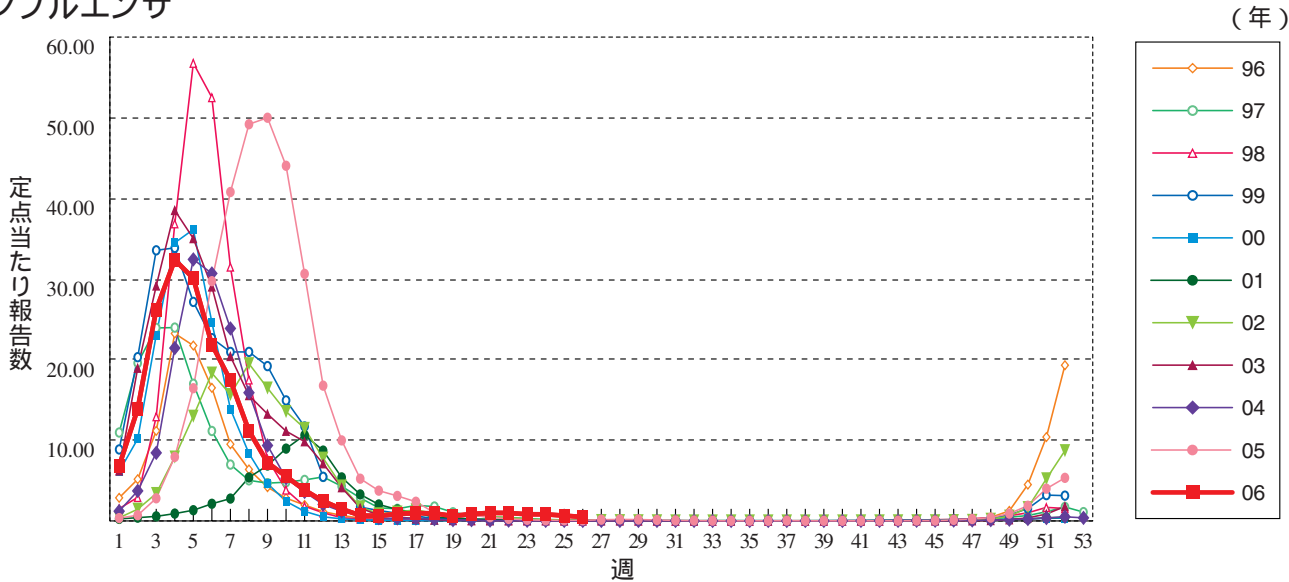
アタマジラミ症は学校保健上しばしば問題となるが、学校保健法施行規則の一部改正( 1999年4月 )にともない文部省が作成した参考資料では「通常出席停止の必要はないと考えられる伝染病」として例示された。

( 国立感染症研究所昆虫医科学部 関 なおみ 小林睦生 )

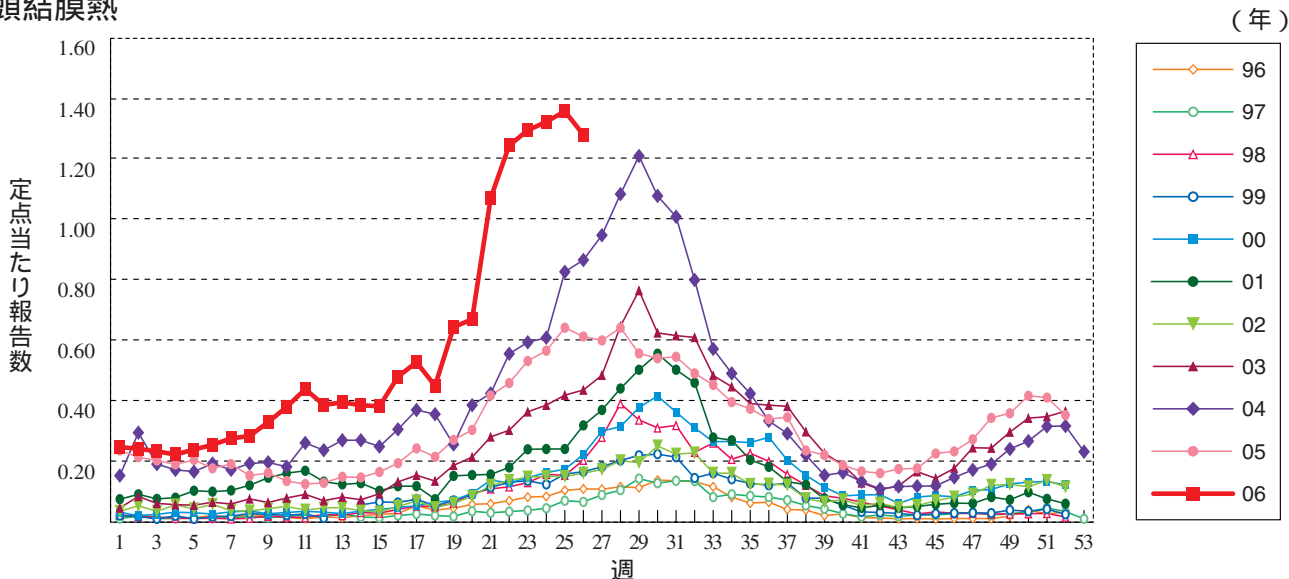


**グラフ総覧(26週)**

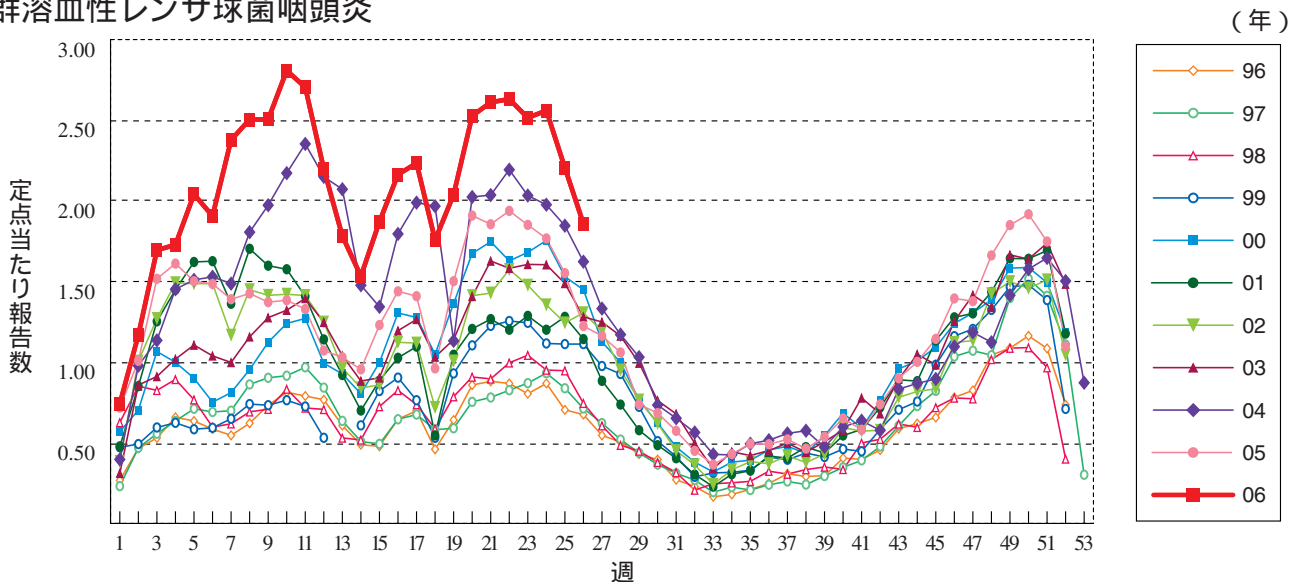
**インフルエンザ**



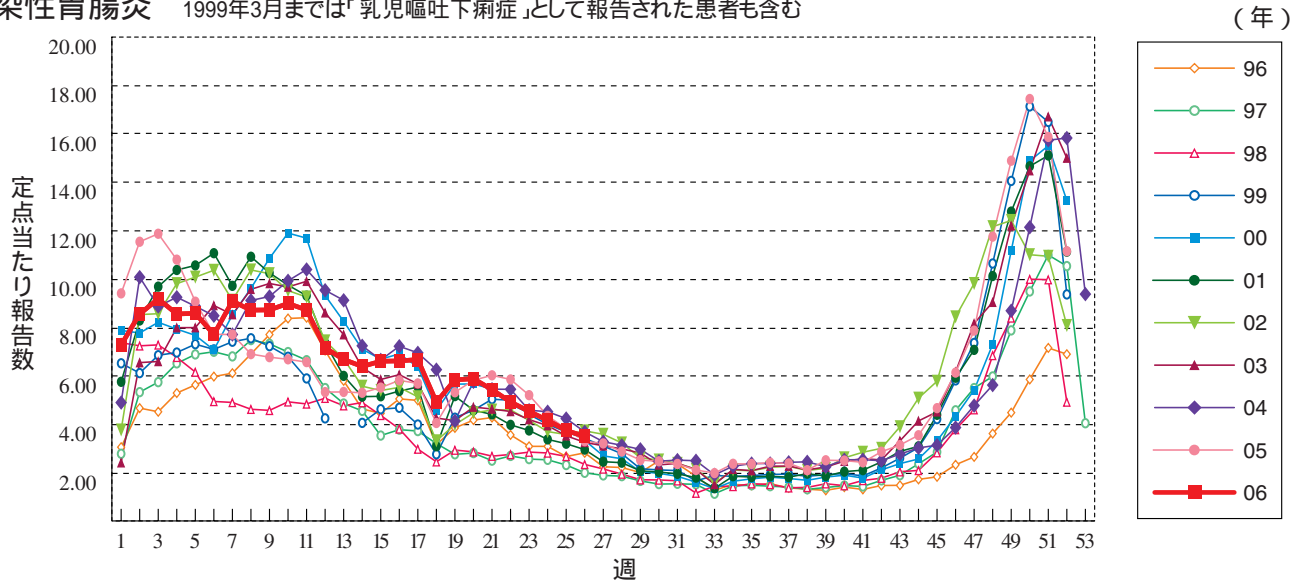
**咽頭結膜熱**



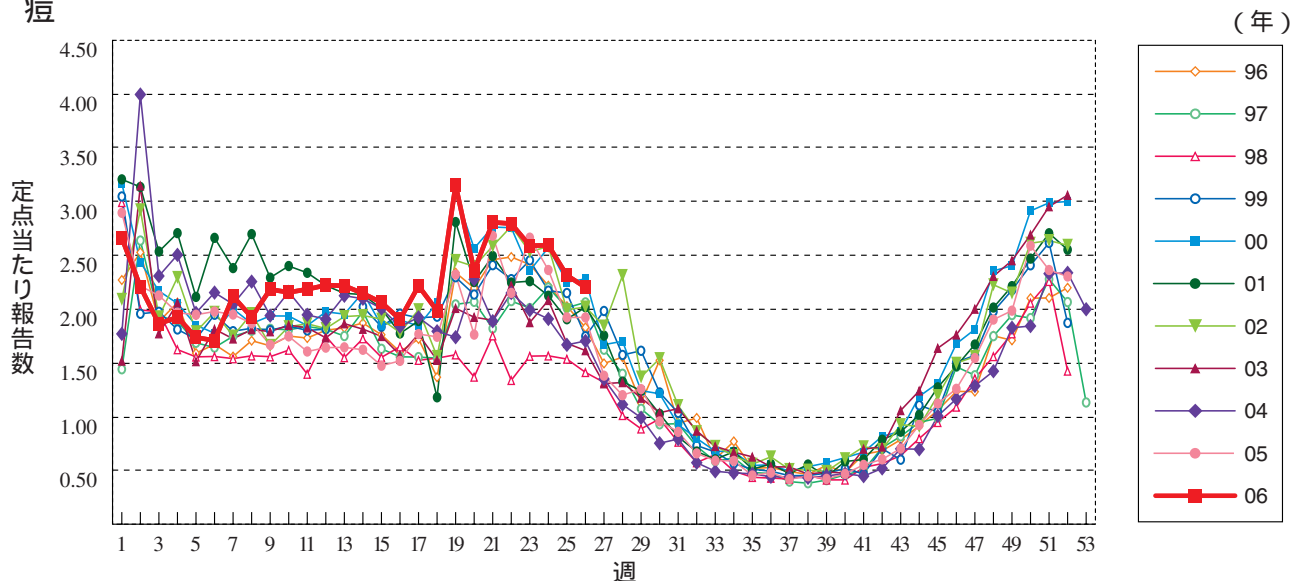
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



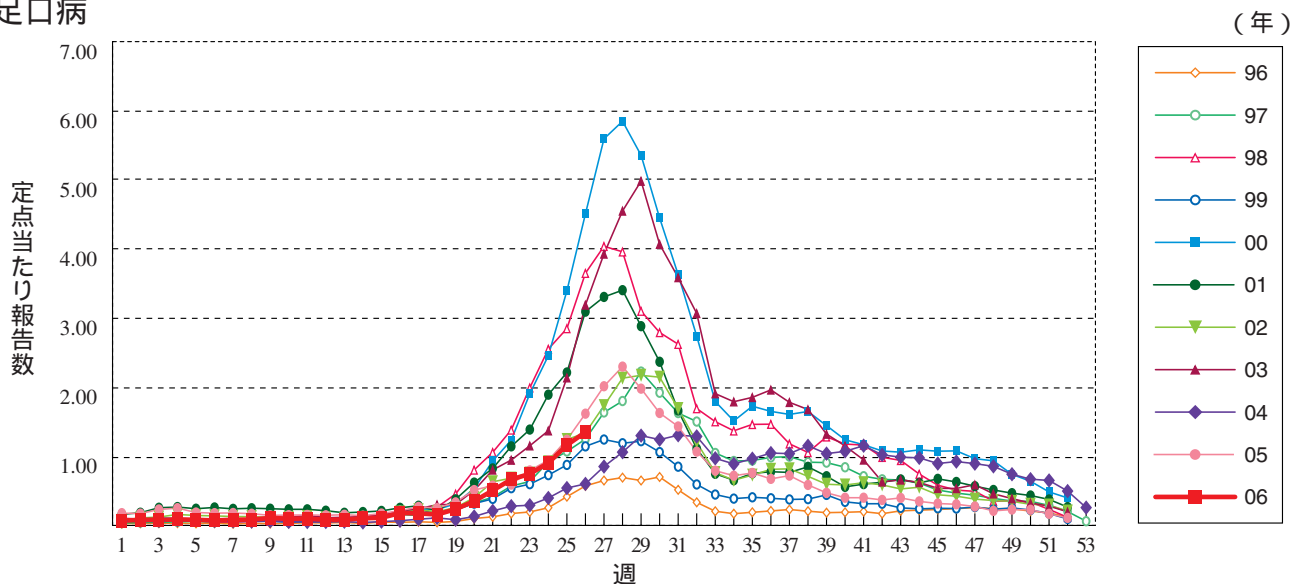
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



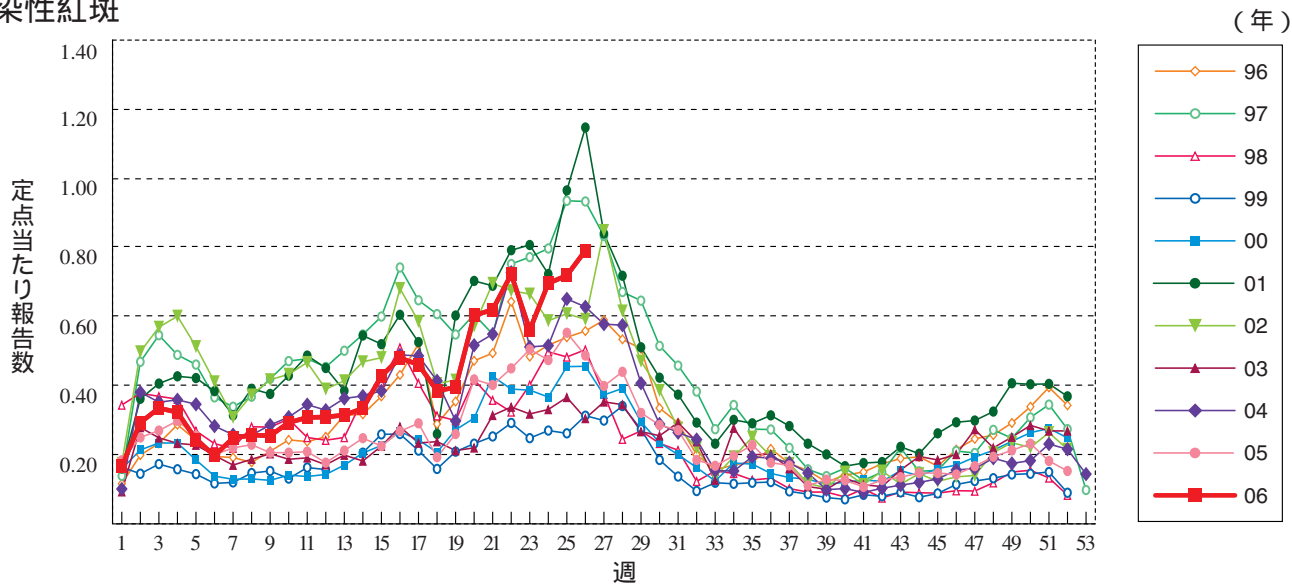
**水痘**



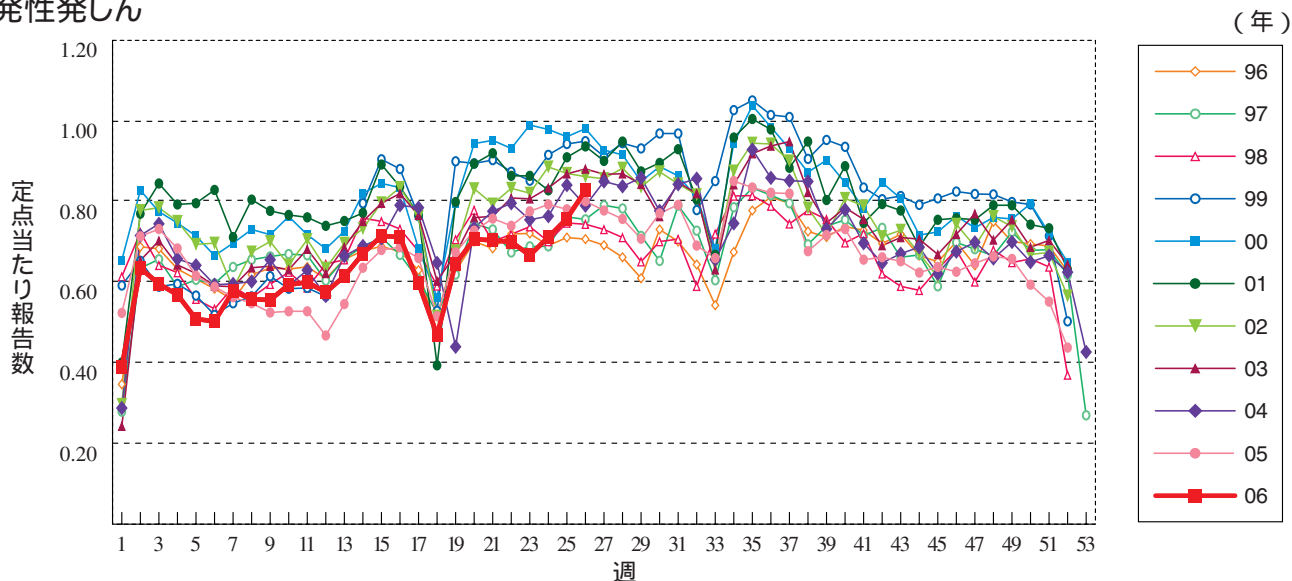
**手足口病**



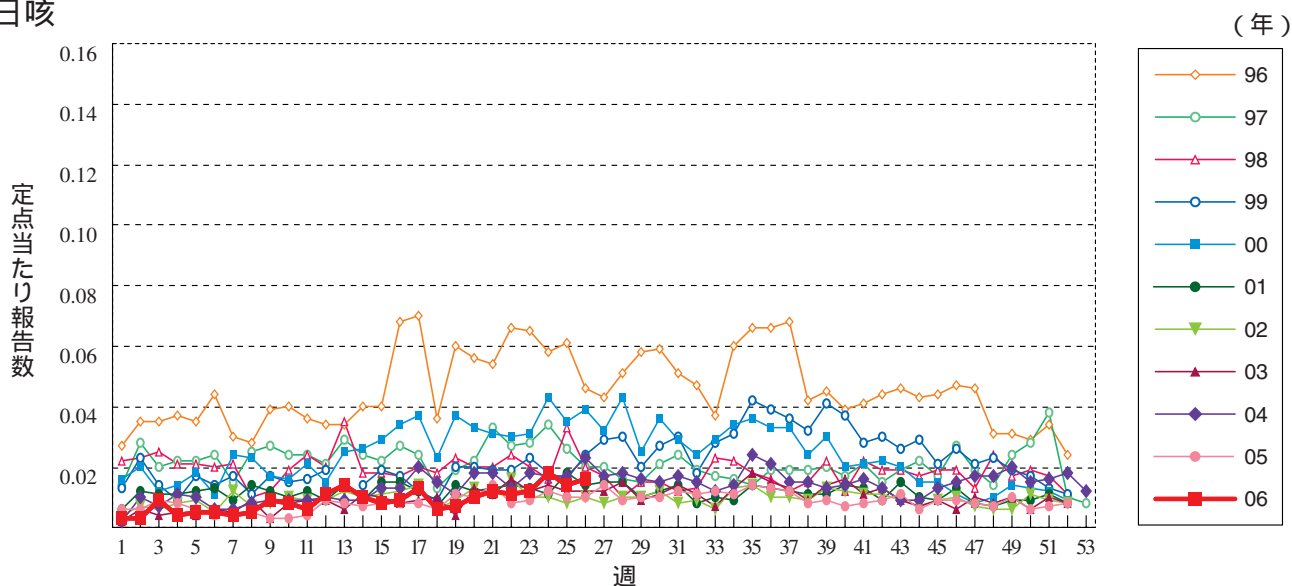
伝染性紅斑



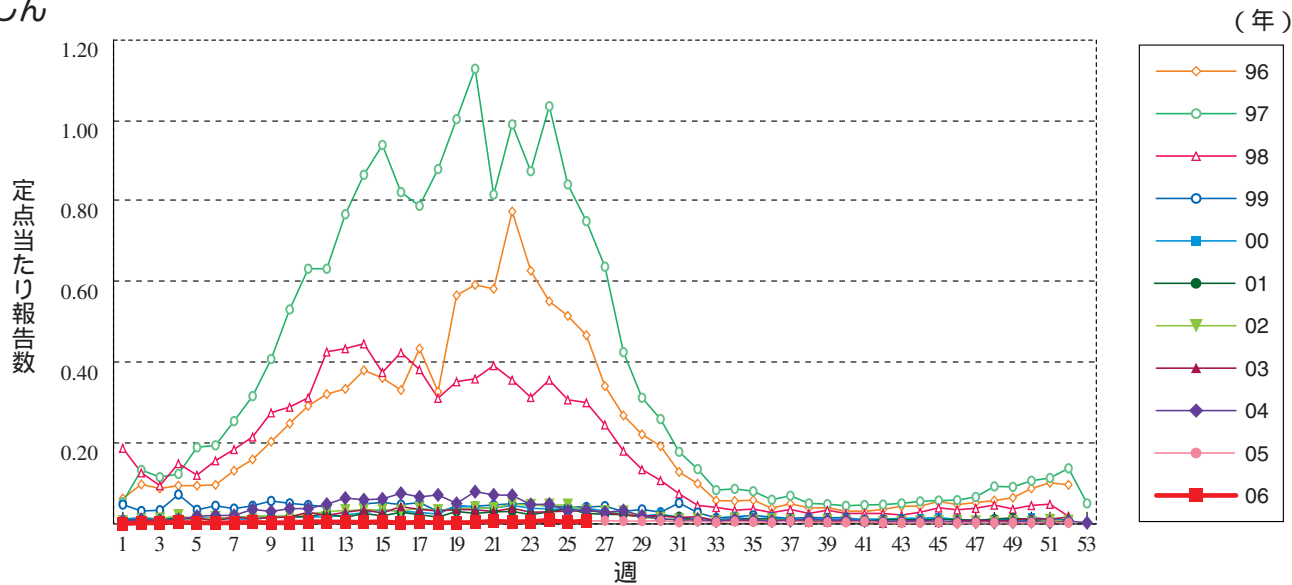
突発性発しん



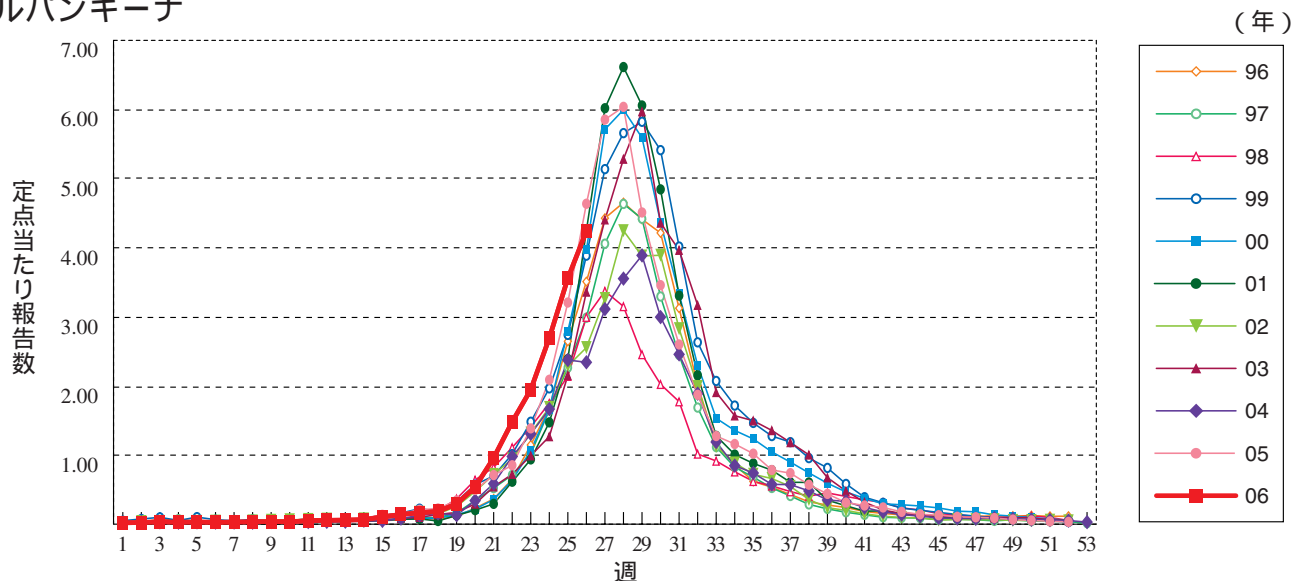
百日咳



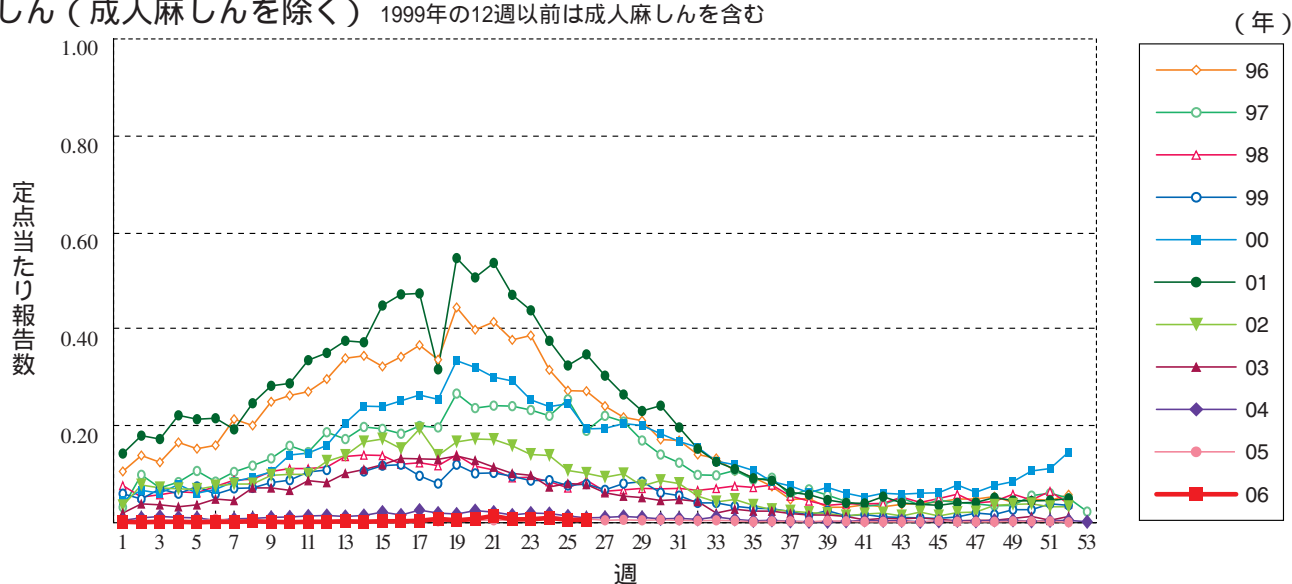
風しん



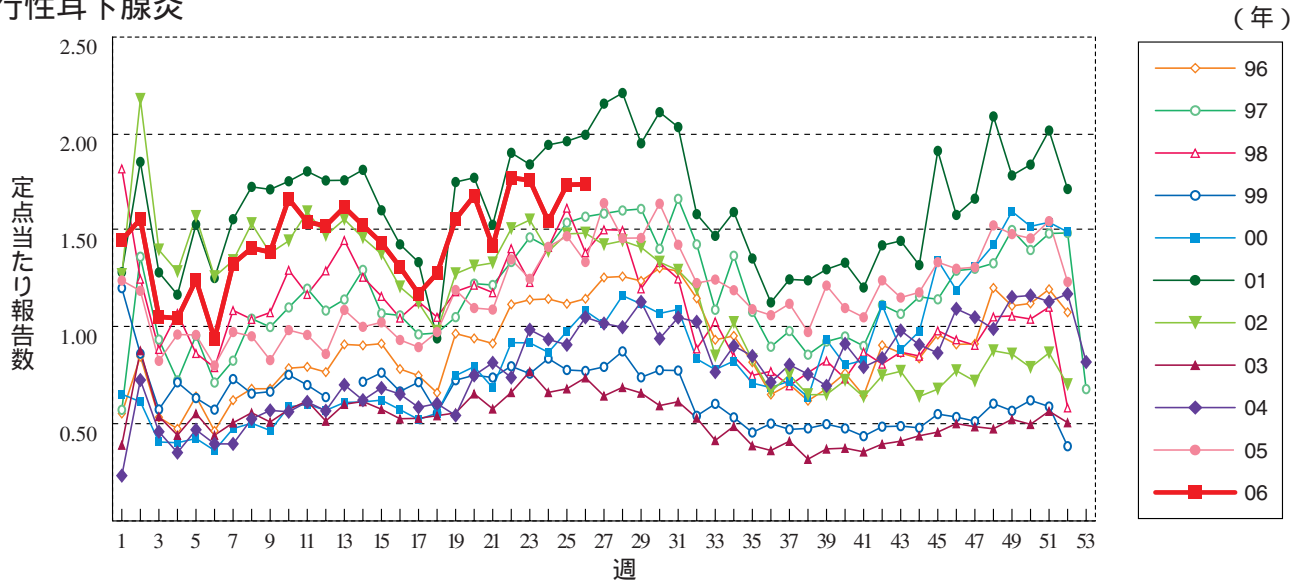
ヘルパンギーナ



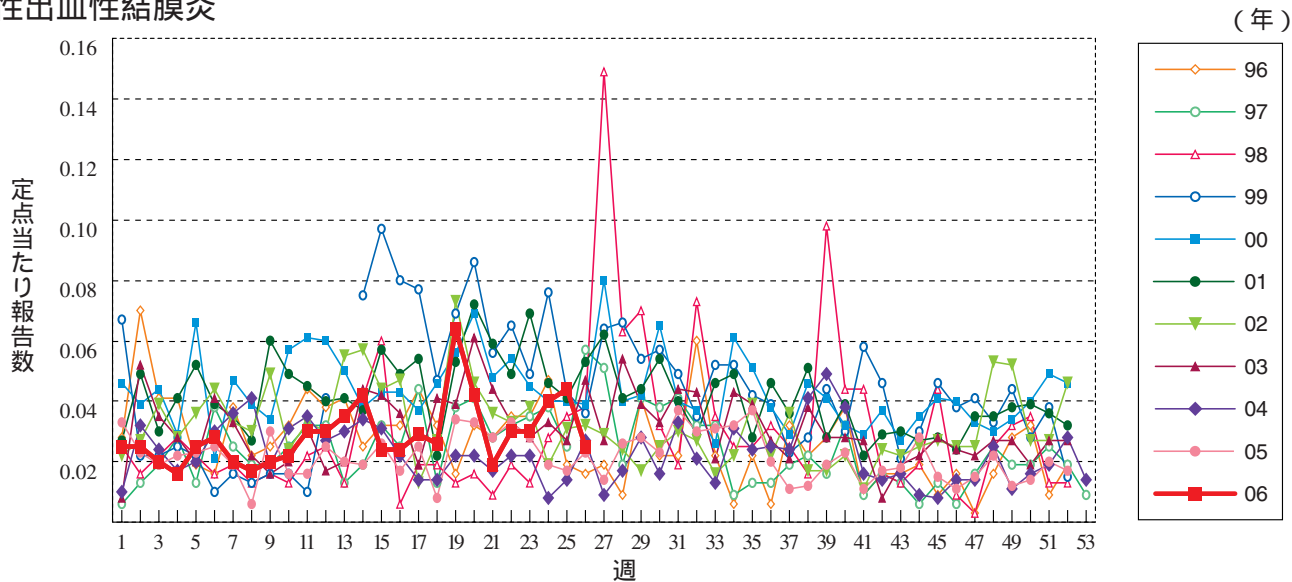
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



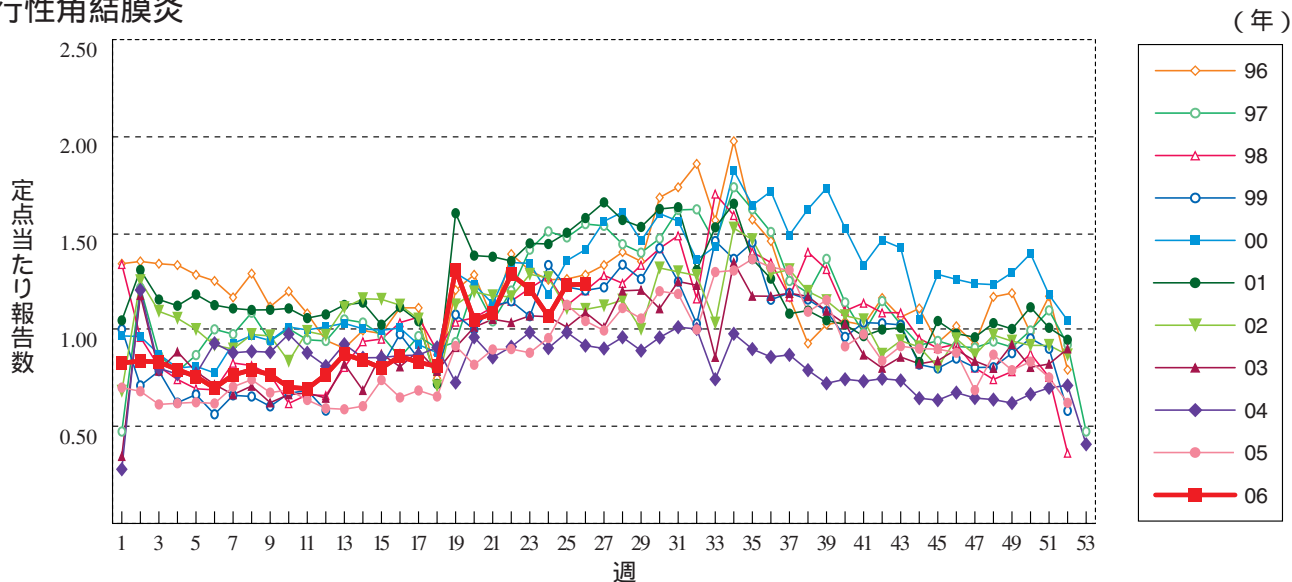
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



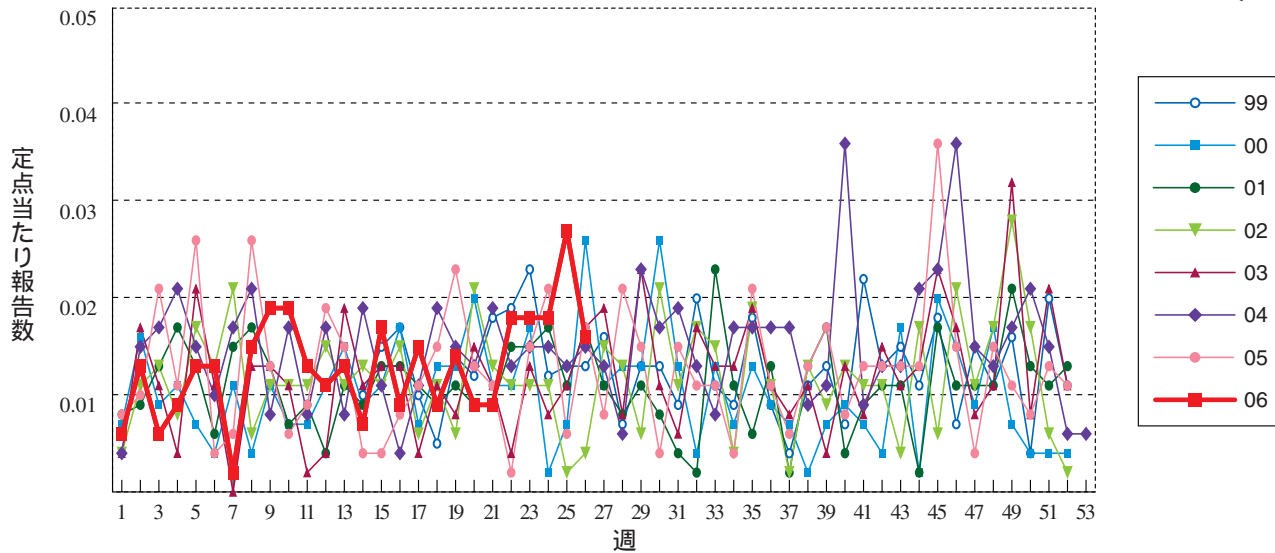
流行性角結膜炎





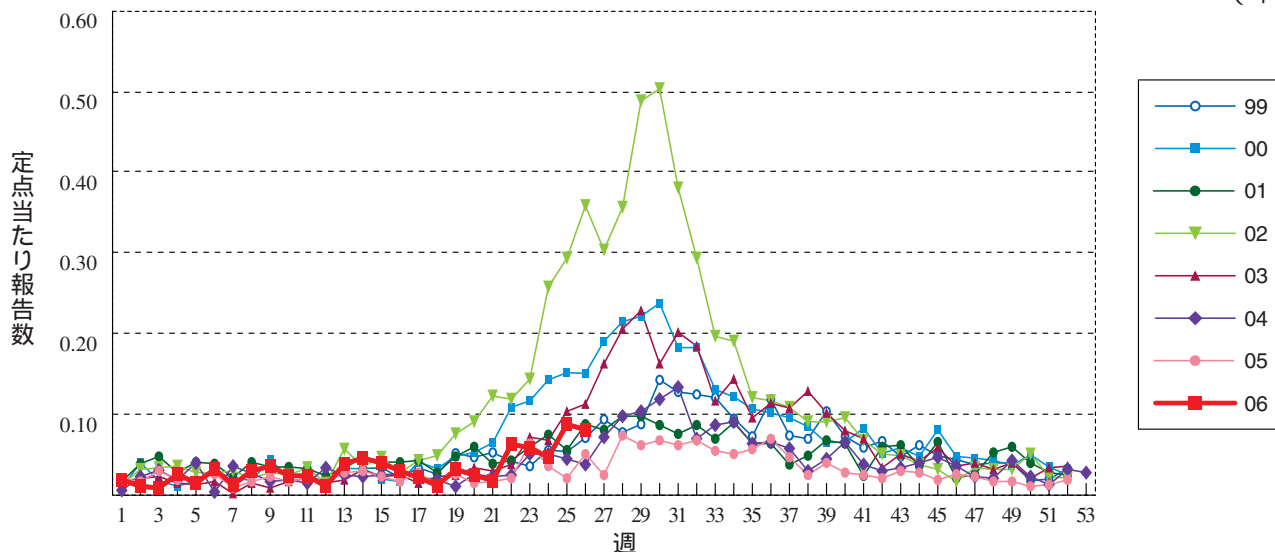
細菌性髄膜炎

(年)



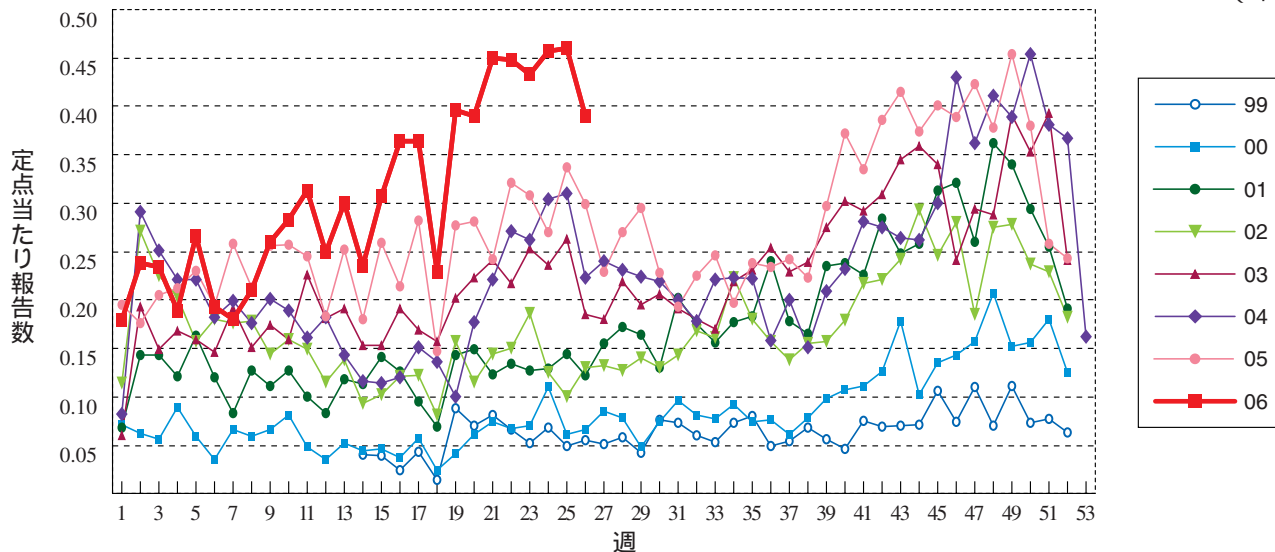
無菌性髄膜炎

(年)



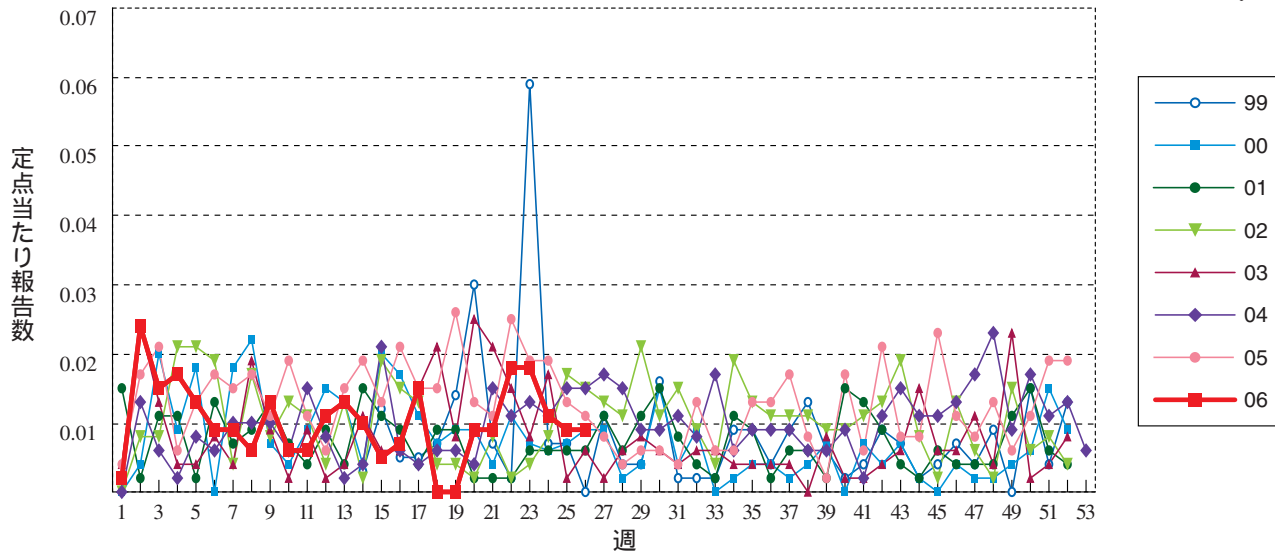
マイコプラズマ肺炎

(年)



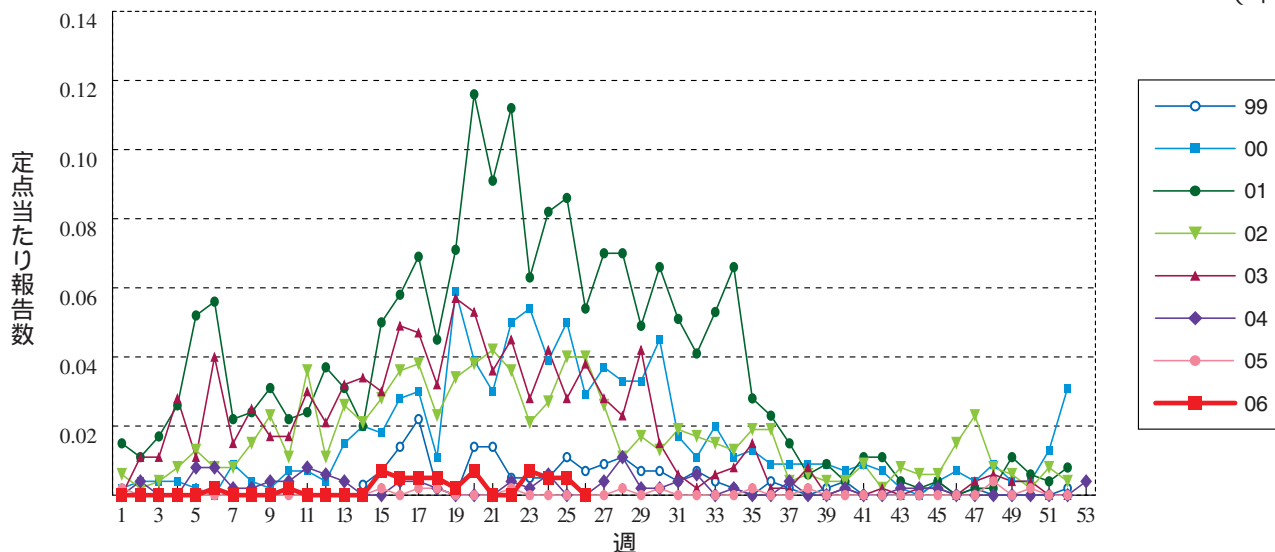
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



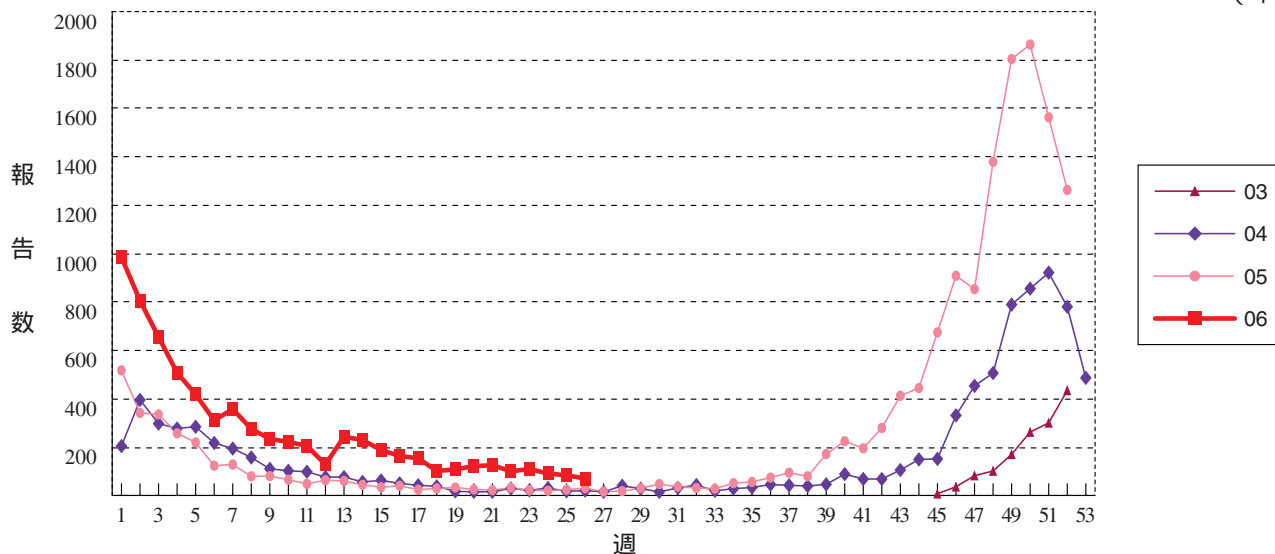
成人麻しん

(年)



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。

(年)





## 26週のデータ

注1) 表中の報告数は7月6日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。

2006年4月からの報告システムの変更に伴い、疾病の並び順を一部変更しました。

注2) また報告システム変更の影響により、この「累積」においては漏れている報告例もありますが、近いうちにそれらも反映する予定です。

\*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2006年26週

	エボラ出血熱		クリミア ・コンゴ出血熱		重症急性呼吸器 症候群*		痘 そう		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		コレラ	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	24
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	細菌性赤痢		ジフテリア		腸チフス		パラチフス		腸管出血性大腸菌感染症		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		エキノコックス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	4	208	-	-	1	43	-	14	111	864	1	37	-	-	1	216	-	12
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14	-	9	-	-	-	12	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	13	-	2	-	-	-	4	-	-
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	-	1	44	-	-	-	-	-	2	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	1	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3	-	1	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	2	-	-	-	1	-	-	-	6	-	2	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	5	33	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	7	-	-	-	2	-	-	18	45	-	-	-	-	-	6	-	-
千葉県	-	37	-	-	-	4	-	1	5	29	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	1	30	-	-	-	13	-	9	12	62	-	1	-	-	-	22	-	-
神奈川県	-	9	-	-	-	6	-	1	2	39	1	7	-	-	-	11	-	-
新潟県	-	8	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	15	-	-
富山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	2	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	29	-	-	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	1	-	1	-	7	-	2	-	-	-	2	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	8	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	6	17	-	-	-	-	-	4	-	-
愛知県	1	15	-	-	-	4	-	2	8	52	-	3	-	-	-	16	-	-
三重県	-	2	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	1	-	1
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-	-	8	-	-
大阪府	-	50	-	-	-	5	-	-	2	83	-	-	-	-	1	32	-	-
兵庫県	2	15	-	-	-	-	-	-	4	44	-	1	-	-	-	18	-	-
奈良県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	37	-	-	-	-	-	13	-	-
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	6	33	-	1	-	-	-	7	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	3	8	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	3	-	-
高知県	-	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	7	-	-	-	1	-	-	14	44	-	1	-	-	-	7	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	1	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	1	10	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	34	-	4	-	-	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	黄熱		オウム病		回帰熱		Q熱		狂犬病		高病原性鳥インフルエンザ		コクシジオイデス症		サル痘		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	15	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	炭 疽		つつが虫病		デング熱		ニパウイルス 感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	6	152	1	20	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	2
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	3	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	3	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症		レジオネラ症		レプトスピラ症		アメーバ赤痢	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	1	2	26	-	-	-	2	-	-	13	193	-	-	12	335
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	6	-	-	2	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	1	11
千葉県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	16
東京都	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	3	91
神奈川県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	1	26
新潟県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	4
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	9
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	20	-	-	-	25
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	5
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	4
京都府	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	6
大阪府	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	2	43
兵庫県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	22
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

\*E型肝炎およびA型肝炎を除く。  
 \*\*ウエストナイル脳炎および日本脳炎を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプトスポリジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	5	120	-	91	-	7	-	80	1	68	16	604	2	43	-	9	-	-
北海道	-	4	-	2	-	-	-	5	-	6	2	16	-	1	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
福島県	-	2	-	2	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	2	-	6	-	-	-	1	-	1	-	18	-	1	-	-	-	-
栃木県	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	3	-	3	-	7	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	6	-	-	-	3	-	1	-	20	-	1	-	1	-	-
千葉県	-	2	-	11	-	-	-	3	-	5	2	27	-	-	-	-	-	-
東京都	1	20	-	4	-	5	-	9	-	10	2	207	-	14	-	1	-	-
神奈川県	-	5	-	2	-	1	-	6	-	4	2	32	-	2	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	2	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
富山県	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	3	-	-	-	-	-	2	1	5	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	1	-	2	-	-	-	4	-	-	-	4	-	6	-	-	-	-
長野県	-	6	-	-	-	-	-	1	-	1	1	10	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	4	-	2	-	-	-	3	1	5	-	9	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	6	-	3	-	-	-	3	-	7	2	52	-	2	-	1	-	-
三重県	1	6	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	7	-	1	-	-	-	-
京都府	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	13	-	5	-	1	-	4	-	2	3	62	1	7	-	1	-	-
兵庫県	1	13	-	4	-	-	-	2	-	5	-	21	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	7	-	2	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	4	-	2	-	-	-	2	-	1	-	4	-	1	-	-	-	-
広島県	-	3	-	5	-	-	-	4	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-
山口県	1	2	-	1	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	3	-	6	-	-	-	2	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	梅 毒		破 傷 風		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		バンコマイシン耐性 腸球菌感染症		インフルエンザ (H5N1)	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	12	302	3	41	-	-	-	38	-	-
北海道	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-
青森県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	1	8	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	1	-	-	-	2	-	-
千葉県	2	10	2	5	-	-	-	1	-	-
東京都	3	51	-	3	-	-	-	3	-	-
神奈川県	-	12	-	2	-	-	-	8	-	-
新潟県	1	4	-	1	-	-	-	2	-	-
富山県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	1	1	-	-	-	3	-	-
静岡県	-	7	-	-	-	-	-	3	-	-
愛知県	-	24	-	1	-	-	-	-	-	-
三重県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	4	-	1	-	-	-	1	-	-
大阪府	1	19	-	1	-	-	-	4	-	-
兵庫県	-	11	-	1	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	3	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	19	-	-	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	20	-	2	-	-	-	1	-	-
大分県	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-
宮崎県	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	11	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-

\*高病原性鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	インフルエンザ*		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	2153	0.49	3864	1.28	5607	1.86	10554	3.50	6647	2.20	4075	1.35	2385	0.79	2497	0.83	49	0.02
北海道	262	1.16	226	1.58	366	2.56	273	1.91	439	3.07	27	0.19	42	0.29	77	0.54	1	0.01
青森県	166	2.55	22	0.52	38	0.90	67	1.60	107	2.55	6	0.14	37	0.88	15	0.36	-	-
岩手県	80	1.27	15	0.38	28	0.72	79	2.03	81	2.08	6	0.15	12	0.31	25	0.64	-	-
宮城県	15	0.15	44	0.72	110	1.80	255	4.18	135	2.21	94	1.54	53	0.87	67	1.10	-	-
秋田県	27	0.49	30	0.86	76	2.17	95	2.71	69	1.97	5	0.14	39	1.11	23	0.66	1	0.03
山形県	-	-	41	1.37	99	3.30	57	1.90	81	2.70	2	0.07	46	1.53	25	0.83	-	-
福島県	2	0.03	27	0.56	114	2.38	213	4.44	168	3.50	8	0.17	34	0.71	53	1.10	3	0.06
茨城県	12	0.18	98	1.32	182	2.46	180	2.43	183	2.47	17	0.23	60	0.81	34	0.46	1	0.01
栃木県	2	0.03	67	1.46	35	0.76	86	1.87	111	2.41	82	1.78	62	1.35	19	0.41	4	0.09
群馬県	2	0.02	77	1.24	142	2.29	221	3.56	115	1.85	28	0.45	22	0.35	54	0.87	-	-
埼玉県	1	0.00	281	1.75	363	2.25	662	4.11	399	2.48	176	1.09	254	1.58	130	0.81	2	0.01
千葉県	8	0.04	111	0.90	253	2.04	354	2.85	287	2.31	41	0.33	133	1.07	124	1.00	5	0.04
東京都	2	0.01	221	1.58	208	1.49	485	3.46	210	1.50	83	0.59	102	0.73	100	0.71	2	0.01
神奈川県	4	0.01	379	1.87	408	2.01	595	2.93	415	2.04	120	0.59	211	1.04	174	0.86	2	0.01
新潟県	11	0.13	70	1.15	156	2.56	142	2.33	205	3.36	101	1.66	43	0.70	68	1.11	-	-
富山県	-	-	40	1.38	60	2.07	154	5.31	77	2.66	18	0.62	18	0.62	22	0.76	-	-
石川県	-	-	22	0.76	40	1.38	98	3.38	67	2.31	34	1.17	9	0.31	14	0.48	-	-
福井県	2	0.06	43	1.95	53	2.41	175	7.95	50	2.27	201	9.14	11	0.50	13	0.59	1	0.05
山梨県	1	0.03	15	0.65	17	0.74	38	1.65	20	0.87	4	0.17	8	0.35	9	0.39	-	-
長野県	4	0.05	111	2.02	159	2.89	202	3.67	225	4.09	47	0.85	28	0.51	33	0.60	1	0.02
岐阜県	-	-	100	1.89	56	1.06	78	1.47	108	2.04	276	5.21	67	1.26	19	0.36	-	-
静岡県	-	-	96	1.12	218	2.53	422	4.91	242	2.81	407	4.73	124	1.44	104	1.21	3	0.03
愛知県	10	0.05	237	1.30	347	1.91	479	2.63	477	2.62	841	4.62	222	1.22	151	0.83	6	0.03
三重県	8	0.11	65	1.44	135	3.00	248	5.51	104	2.31	162	3.60	32	0.71	45	1.00	-	-
滋賀県	14	0.26	60	1.88	41	1.28	33	1.03	60	1.88	128	4.00	17	0.53	14	0.44	-	-
京都府	7	0.06	81	1.13	105	1.46	270	3.75	124	1.72	54	0.75	89	1.24	42	0.58	1	0.01
大阪府	26	0.13	261	1.40	480	2.57	749	4.01	344	1.84	126	0.67	84	0.45	153	0.82	5	0.03
兵庫県	9	0.05	113	0.88	194	1.50	547	4.24	224	1.74	250	1.94	78	0.60	106	0.82	1	0.01
奈良県	1	0.04	84	2.40	46	1.31	77	2.20	57	1.63	44	1.26	1	0.03	16	0.46	-	-
和歌山県	9	0.18	42	1.35	45	1.45	85	2.74	59	1.90	40	1.29	22	0.71	38	1.23	-	-
鳥取県	5	0.17	40	2.11	50	2.63	93	4.89	22	1.16	1	0.05	29	1.53	16	0.84	-	-
島根県	1	0.03	40	1.74	35	1.52	93	4.04	44	1.91	4	0.17	26	1.13	24	1.04	-	-
岡山県	23	0.28	34	0.63	30	0.56	206	3.81	98	1.81	98	1.81	17	0.31	42	0.78	1	0.02
広島県	58	0.50	74	1.03	128	1.78	326	4.53	118	1.64	26	0.36	53	0.74	54	0.75	-	-
山口県	4	0.06	20	0.41	56	1.14	292	5.96	89	1.82	17	0.35	18	0.37	49	1.00	-	-
徳島県	2	0.05	23	1.00	28	1.22	47	2.04	40	1.74	110	4.78	4	0.17	19	0.83	-	-
香川県	16	0.31	47	1.47	26	0.81	59	1.84	35	1.09	115	3.59	12	0.38	25	0.78	-	-
愛媛県	25	0.41	94	2.54	53	1.43	164	4.43	125	3.38	31	0.84	26	0.70	34	0.92	1	0.03
高知県	-	-	18	0.58	30	0.97	54	1.74	46	1.48	12	0.39	7	0.23	32	1.03	-	-
福岡県	66	0.33	116	0.97	190	1.58	604	5.03	248	2.07	112	0.93	65	0.54	111	0.93	4	0.03
佐賀県	9	0.23	20	0.87	34	1.48	38	1.65	56	2.43	14	0.61	13	0.57	30	1.30	-	-
長崎県	63	0.90	45	1.02	43	0.98	128	2.91	39	0.89	4	0.09	50	1.14	35	0.80	2	0.05
熊本県	51	0.64	37	0.77	71	1.48	303	6.31	91	1.90	56	1.17	29	0.60	68	1.42	-	-
大分県	18	0.31	25	0.69	90	2.50	301	8.36	92	2.56	18	0.50	12	0.33	58	1.61	1	0.03
宮崎県	27	0.45	38	1.03	107	2.89	240	6.49	118	3.19	6	0.16	54	1.46	73	1.97	1	0.03
鹿児島県	22	0.24	87	1.55	48	0.86	159	2.84	97	1.73	17	0.30	7	0.13	39	0.70	-	-
沖縄県	1078	18.59	27	0.79	14	0.41	28	0.82	46	1.35	6	0.18	3	0.09	21	0.62	-	-



\*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	24	0.01	12793	4.24	17	0.01	5249	1.74	16	0.03	782	1.24	7	0.02	36	0.08	173	0.39
北海道	1	0.01	201	1.41	1	0.01	391	2.73	1	0.03	24	0.83	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	110	2.62	-	-	76	1.81	-	-	11	1.00	-	-	-	-	16	2.67
岩手県	-	-	116	2.97	1	0.03	50	1.28	-	-	6	0.50	-	-	-	-	12	0.60
宮城県	3	0.05	352	5.77	-	-	127	2.08	-	-	1	0.08	1	0.08	-	-	5	0.42
秋田県	-	-	64	1.83	1	0.03	19	0.54	-	-	8	1.14	-	-	1	0.13	5	0.63
山形県	-	-	154	5.13	-	-	56	1.87	-	-	7	0.88	-	-	1	0.10	3	0.30
福島県	-	-	241	5.02	-	-	112	2.33	-	-	14	1.17	-	-	-	-	3	0.50
茨城県	-	-	220	2.97	1	0.01	137	1.85	2	0.15	40	3.08	-	-	-	-	2	0.33
栃木県	-	-	221	4.80	-	-	95	2.07	-	-	28	2.33	-	-	-	-	4	0.57
群馬県	-	-	198	3.19	-	-	181	2.92	-	-	41	2.93	-	-	-	-	16	2.00
埼玉県	-	-	872	5.42	2	0.01	336	2.09	2	0.05	66	1.65	-	-	-	-	12	1.33
千葉県	2	0.02	979	7.90	6	0.05	183	1.48	3	0.09	26	0.79	-	-	6	0.67	-	-
東京都	-	-	784	5.60	-	-	125	0.89	1	0.07	14	1.00	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	2	0.01	1503	7.40	1	0.00	365	1.80	1	0.02	114	2.71	-	-	1	0.11	4	0.44
新潟県	2	0.03	377	6.18	-	-	207	3.39	-	-	12	1.20	-	-	-	-	13	1.08
富山県	-	-	88	3.03	-	-	35	1.21	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.40
石川県	-	-	44	1.52	-	-	22	0.76	-	-	3	0.43	-	-	-	-	6	1.20
福井県	-	-	26	1.18	-	-	11	0.50	-	-	6	2.00	1	0.17	1	0.17	1	0.17
山梨県	1	0.04	42	1.83	-	-	61	2.65	-	-	6	0.75	-	-	-	-	2	0.20
長野県	-	-	252	4.58	-	-	176	3.20	1	0.09	13	1.18	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	101	1.91	-	-	18	0.34	-	-	16	1.60	-	-	-	-	4	0.80
静岡県	1	0.01	408	4.74	-	-	247	2.87	-	-	21	1.05	-	-	-	-	-	-
愛知県	2	0.01	587	3.23	-	-	174	0.96	1	0.03	24	0.69	-	-	1	0.08	5	0.42
三重県	-	-	125	2.78	-	-	101	2.24	-	-	-	-	-	-	1	0.13	1	0.13
滋賀県	-	-	73	2.28	-	-	23	0.72	-	-	7	1.00	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	113	1.57	-	-	81	1.13	-	-	9	0.56	1	0.14	-	-	1	0.14
大阪府	2	0.01	851	4.55	-	-	271	1.45	-	-	38	0.84	1	0.10	1	0.10	6	0.60
兵庫県	1	0.01	592	4.59	1	0.01	205	1.59	1	0.03	35	1.06	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	99	2.83	-	-	18	0.51	-	-	5	0.56	-	-	2	0.33	1	0.17
和歌山県	-	-	306	9.87	-	-	30	0.97	-	-	3	0.75	-	-	2	0.18	1	0.09
鳥取県	-	-	29	1.53	-	-	65	3.42	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.40
島根県	1	0.04	98	4.26	-	-	60	2.61	-	-	1	0.33	-	-	3	0.38	2	0.25
岡山県	1	0.02	189	3.50	1	0.02	105	1.94	-	-	6	0.50	-	-	-	-	2	0.40
広島県	2	0.03	236	3.28	1	0.01	80	1.11	-	-	25	1.32	-	-	7	0.33	7	0.33
山口県	-	-	263	5.37	-	-	100	2.04	-	-	7	0.78	-	-	1	0.11	4	0.44
徳島県	-	-	85	3.70	-	-	54	2.35	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	82	2.56	-	-	31	0.97	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	214	5.78	-	-	54	1.46	-	-	31	3.88	-	-	-	-	3	0.50
高知県	-	-	87	2.81	-	-	29	0.94	-	-	1	0.33	-	-	1	0.14	1	0.14
福岡県	1	0.01	549	4.58	-	-	135	1.13	2	0.08	23	0.88	2	0.13	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	80	3.48	-	-	28	1.22	-	-	-	-	-	-	2	0.33	1	0.17
長崎県	-	-	76	1.73	-	-	32	0.73	1	0.13	7	0.88	-	-	-	-	6	0.60
熊本県	-	-	224	4.67	-	-	59	1.23	-	-	26	2.89	1	0.07	-	-	1	0.07
大分県	-	-	174	4.83	-	-	73	2.03	-	-	7	1.40	-	-	3	0.27	-	-
宮崎県	-	-	198	5.35	-	-	106	2.86	-	-	22	5.50	-	-	2	0.29	-	-
鹿児島県	2	0.04	102	1.82	1	0.02	263	4.70	-	-	5	0.71	-	-	-	-	3	0.25
沖縄県	-	-	8	0.24	-	-	42	1.24	-	-	19	1.90	-	-	-	-	13	1.86

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 2006年26週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数
総 数	4	0.01	-	-	70
北海道	-	-	-	-	17
青森県	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	2
宮城県	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	5
山形県	1	0.10	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	3
新潟県	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	3
兵庫県	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	1
岡山県	1	0.20	-	-	1
広島県	-	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	5
佐賀県	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	4

## 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注) 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2006年26週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群 (SARS)						細菌性赤痢		ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		犬		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2006年26週

	インフルエンザ(H5N1)	
	鳥類	
	報告数	累積
総 数	-	-
北海道	-	-
青森県	-	-
岩手県	-	-
宮城県	-	-
秋田県	-	-
山形県	-	-
福島県	-	-
茨城県	-	-
栃木県	-	-
群馬県	-	-
埼玉県	-	-
千葉県	-	-
東京都	-	-
神奈川県	-	-
新潟県	-	-
富山県	-	-
石川県	-	-
福井県	-	-
山梨県	-	-
長野県	-	-
岐阜県	-	-
静岡県	-	-
愛知県	-	-
三重県	-	-
滋賀県	-	-
京都府	-	-
大阪府	-	-
兵庫県	-	-
奈良県	-	-
和歌山県	-	-
鳥取県	-	-
島根県	-	-
岡山県	-	-
広島県	-	-
山口県	-	-
徳島県	-	-
香川県	-	-
愛媛県	-	-
高知県	-	-
福岡県	-	-
佐賀県	-	-
長崎県	-	-
熊本県	-	-
大分県	-	-
宮崎県	-	-
鹿児島県	-	-
沖縄県	-	-

感染症週報 第8巻 第26号 2006年7月14日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 < 厚生労働省 >  
<http://www.forth.go.jp/>  
 < 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。